

守山市人口ビジョン
(令和2年改訂版)

令和2年 3月

目次

I.	人口動向	1
1.	人口	1
2.	世帯	5
3.	自然動態	8
4.	社会動態	12
4.1	転出入の現況（市全体（男女合計））	12
4.2	転出入の現況（男性）	16
4.3	転出入の現況（女性）	20
4.4	転出入の経年変化	24
5.	学区別の動向	29
II.	将来の人口推計	39
1.	国における人口推計	39
2.	人口減少段階の分析	41
III.	守山市の人口展望	42
1.	基本的な考え方	42
2.	学区別の人口展望とシナリオ	43
3.	全市的な人口展望	51
	参考資料	54
1.	人口の変化が地域に与える影響	54
2.	景気の動向	55
3.	守山市の歳入（市税）の推移	56
4.	守山市の生活保護受給率の推移	57

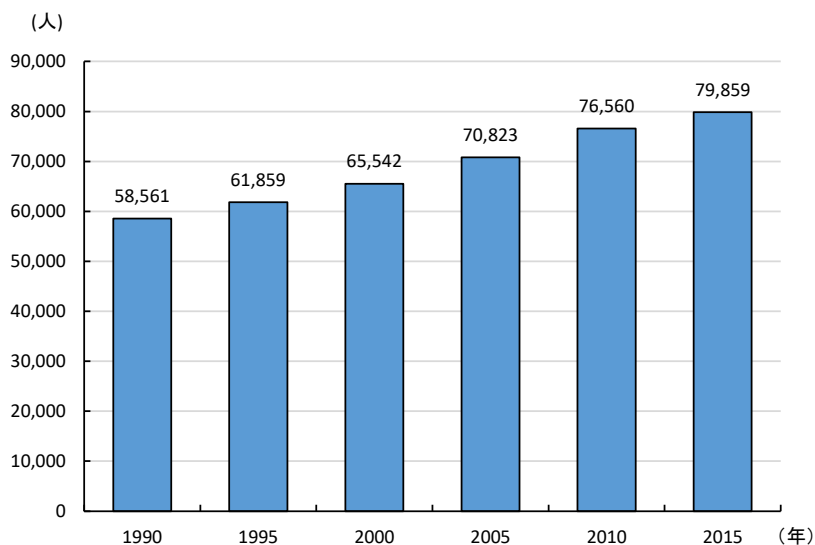
I. 人口動向

1. 人口

総人口の推移、外国人人口の推移、年齢3区分別人口の推移、年齢5歳階級別人口の推移を以下に整理した。

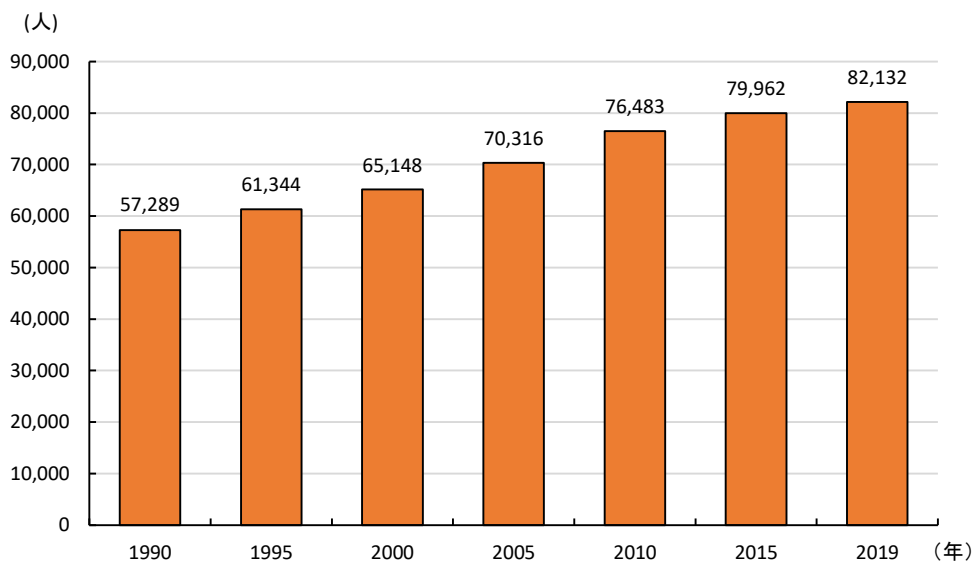
(1) 総人口の推移

- ・本市の総人口は、国勢調査をみると1990年から2015年まで一貫して増加している（図1）。2015年では2010年と比較して、約3,000人（約4.3%）増加している。
- ・住民基本台帳をみると、2015年以降も2019年までの間に約2,400人増加している（図2）。



（資料）総務省「国勢調査」

図1 守山市の総人口の推移（国勢調査）



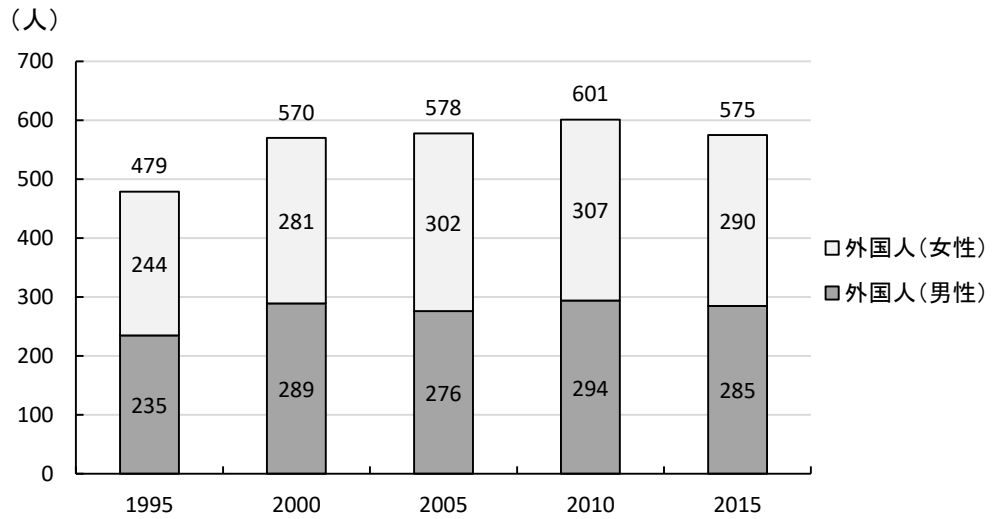
※外国人人口は含まない。

（資料）住民基本台帳（1月1日人口）

図2 守山市の総人口の推移（住民基本台帳）

(2) 外国人人口の推移

・本市の外国人人口は、1995年から2000年にかけて91人増加したが、2000年から2015年は横ばいである（図3）。

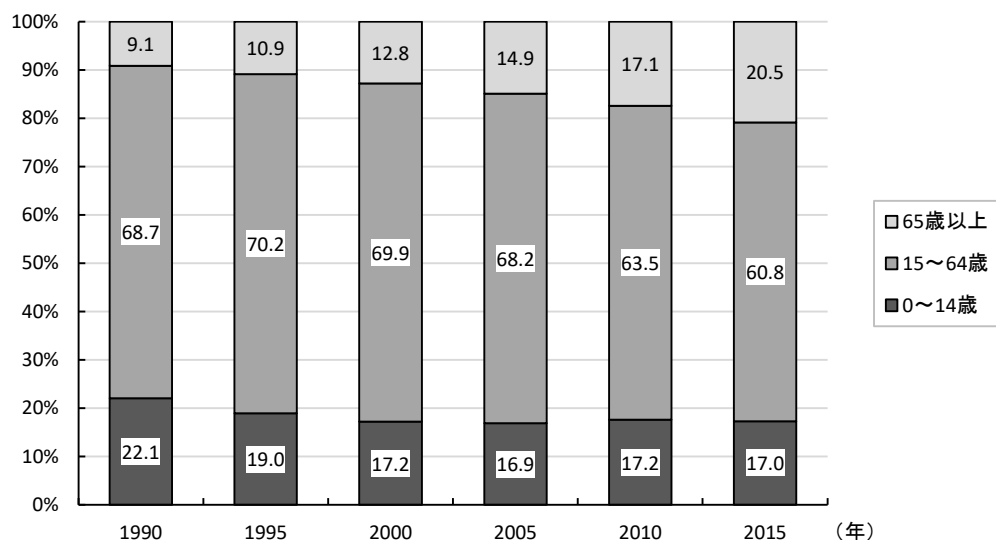
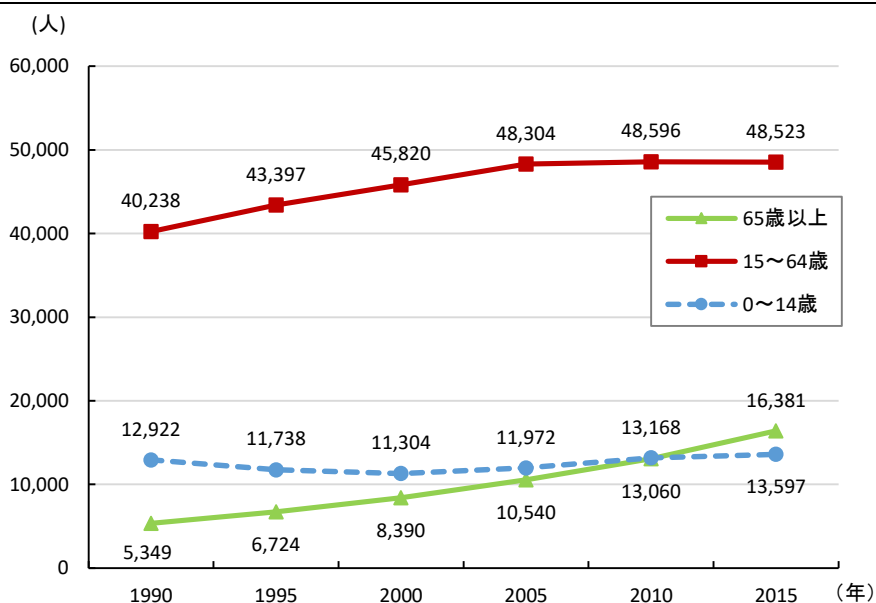


(資料) 総務省「国勢調査」

図3 外国人人口の推移

(3) 年齢3区分別人口の推移

- ・0～14歳未満人口（年少人口）は1990年から2000年まで微減していたが、2000年以降微増している。
- ・15～64歳人口（生産年齢人口）は1990年から2005年にかけて増加していたが、以降は横ばいである。
- ・65歳以上人口（高齢者人口）は1990年以降一貫して増加しており、2010年から2015年の間では約3,000人（約25.4%）増加している。総人口に占める割合も増加傾向にある。

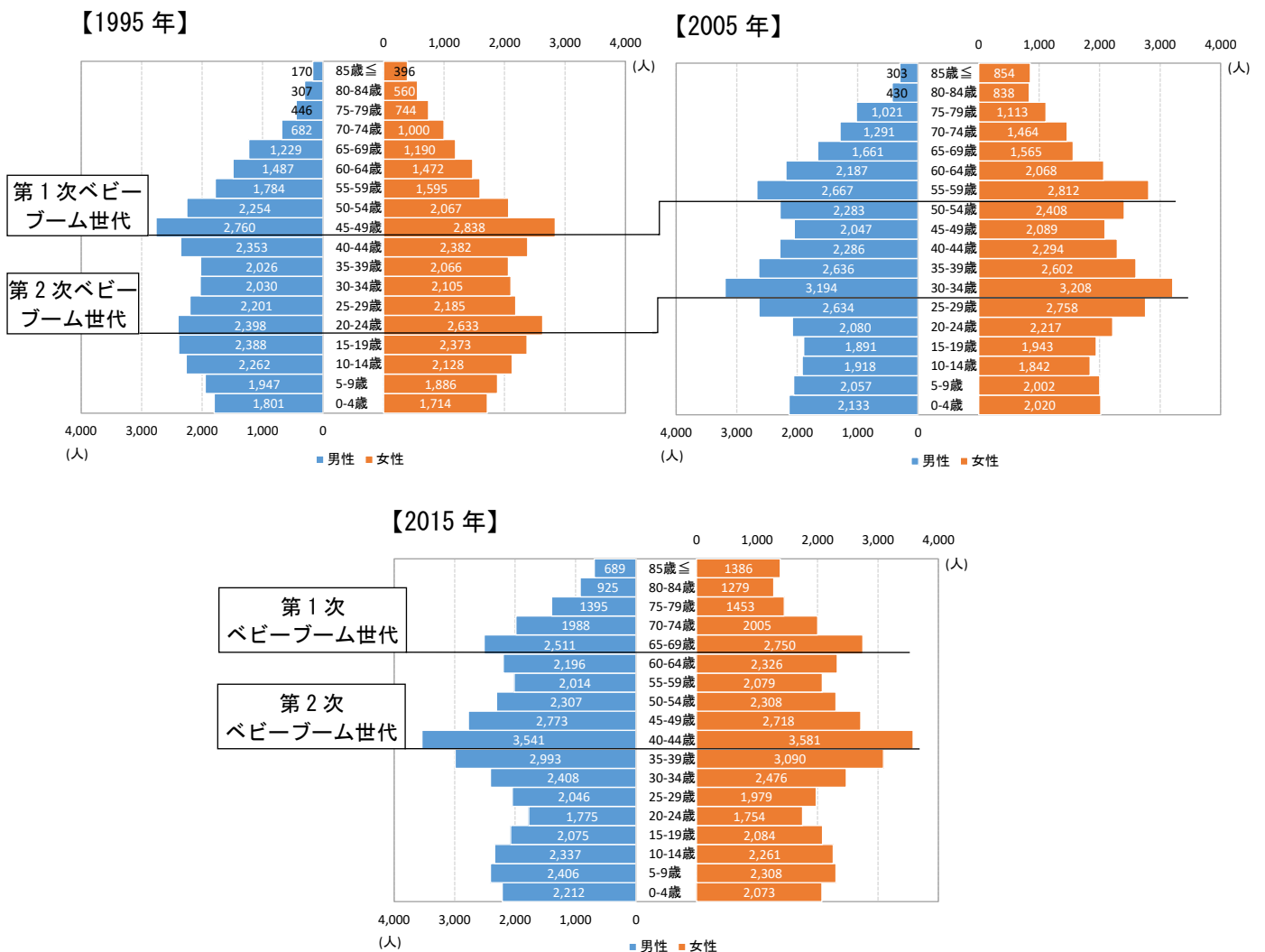


(資料) 総務省「国勢調査」

図4 守山市の総人口に対する年齢3区分別人口の推移

(4) 年齢5 段階級別人口の推移

- ・1995 年では、第1次ベビーブーム世代（1947 年～1949 年生まれ）、第2次ベビーブーム世代（1971 年～1974 年生まれ）を含む年齢層（45～49 歳、20～24 歳）にピークがみられた。第2次ベビーブーム世代以降の年齢層では、若年層ほど人口が少ない。
- ・2005 年では、55～59 歳、30～34 歳にピークがみられる。第2次ベビーブーム世代を含む年齢層（30～34 歳）では、1995 年時よりも人口が約1,400 人増加している。
- ・2015 年では、40～44 歳にピークがみられる。第2次ベビーブーム世代を含む年齢層（40～44 歳）の人口は2005 年時からさらに約700 人増加している。
- ・15 歳未満の年少人口は、1995 年では低年齢層ほど人口が少なかったが、2015 年では低年齢層ほど人口が多い傾向にある。



(資料) 総務省「国勢調査」

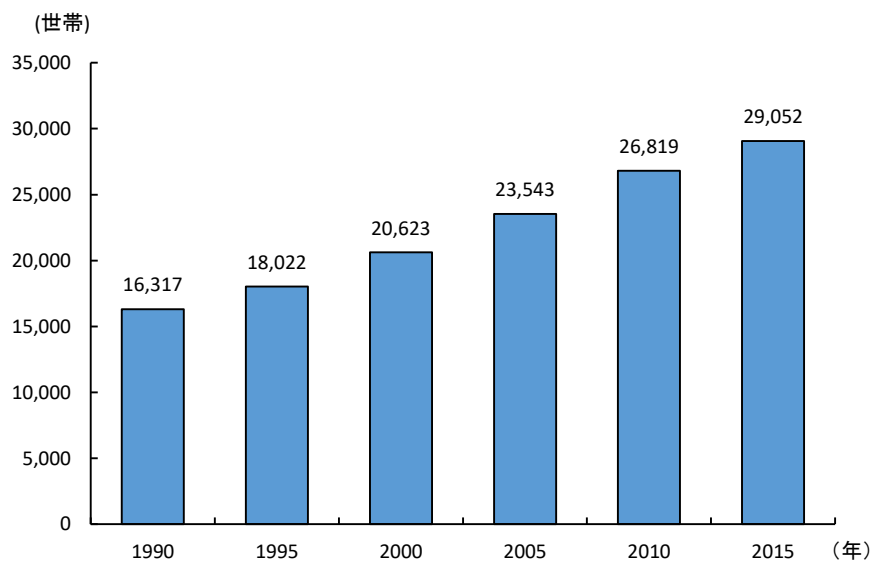
図 5 守山市の人口ピラミッドの変化

2. 世帯

本市の世帯数の推移について、総世帯数の推移、世帯人員別世帯数の推移、1人世帯の年齢構成を以下に整理した。

(1) 総世帯数の推移

- ・本市の総世帯数は1990年から2015年まで一貫して増加している。
- ・2015年では2010年と比較して約2,200世帯（約8.3%）増加している。

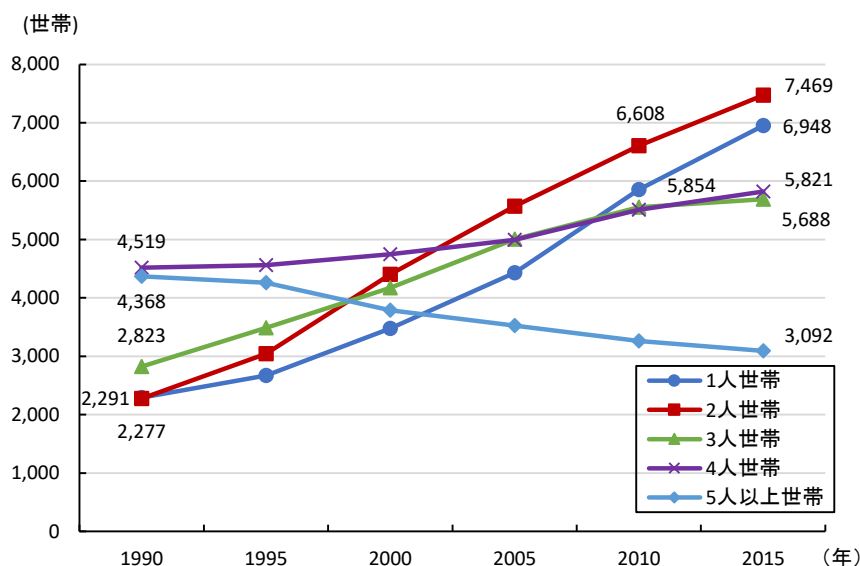


(資料) 総務省「国勢調査」

図 6 守山市の総世帯数の推移

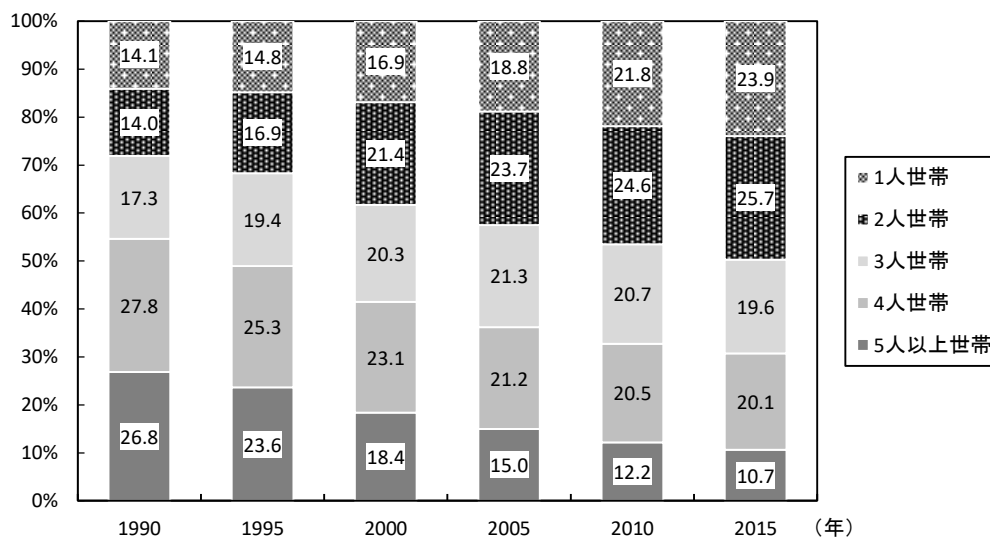
(2) 世帯人員別世帯数の推移

- ・世帯人員別世帯数は、5人以上世帯を除き、増加傾向にある（図7）。特に1人世帯、2人世帯数は、2005年以降、大きく増加している。
- ・4人世帯、5人以上世帯を合わせた割合は1990年では50%以上を占めているが、2015年には30.8%となっている（図8）。一方で、1人世帯、2人世帯を合わせた割合は1990年では28.1%であったが、2015年には49.6%と約半数を占めている。



（資料）総務省「国勢調査」

図7 世帯人員別世帯数の推移

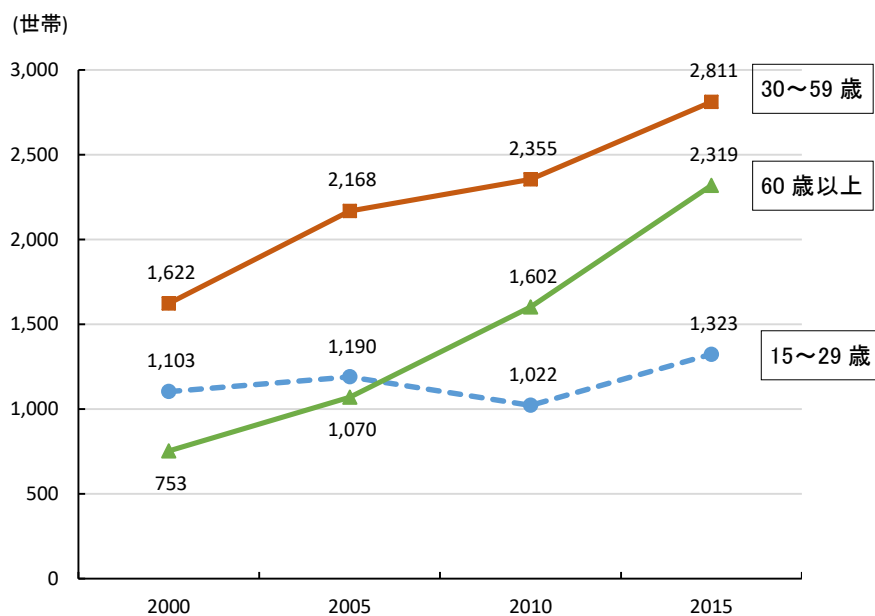


（資料）総務省「国勢調査」

図8 世帯数に占める世帯人員別世帯数割合の推移

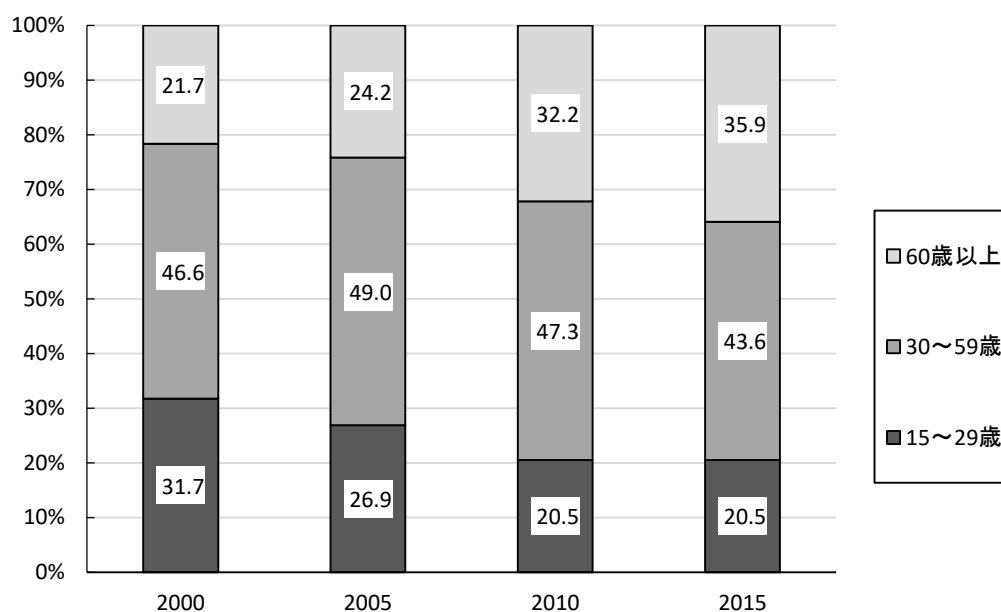
(3) 1人世帯の年齢構成

- ・ 30～59歳、60歳以上の1人世帯数が増加傾向にある（図9）。特に60歳以上は大きく増加している。
- ・ 構成割合で見ると、60歳以上の1人世帯数の割合は年々増加している（図10）。



（資料）総務省「国勢調査」

図9 年齢別1人世帯数の推移



（資料）総務省「国勢調査」

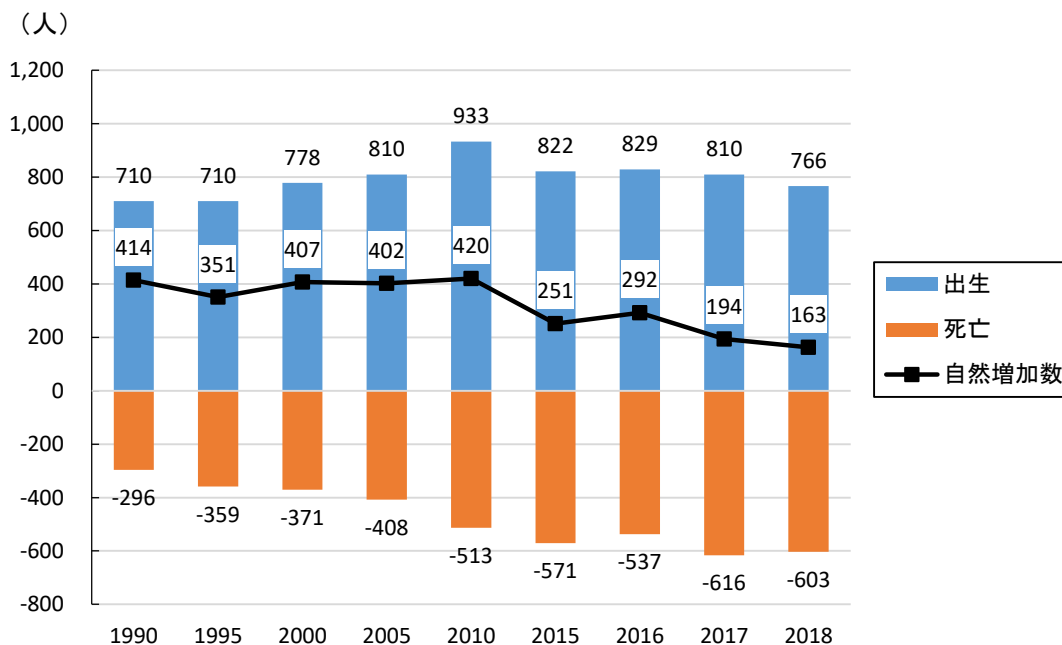
図10 1人世帯の年齢構成割合の推移

3. 自然動態

本市の自然動態について、自然増減の推移、合計特殊出生率の推移を以下に整理した。

(1) 自然増加数の推移

・自然増加数（出生数から死亡数を引いた値）は、一貫して正の値をとっているが、2015年以降減少傾向にある。これは出生数が800人程度で横ばいであるのに対し、死亡数が増加傾向にあるためである。

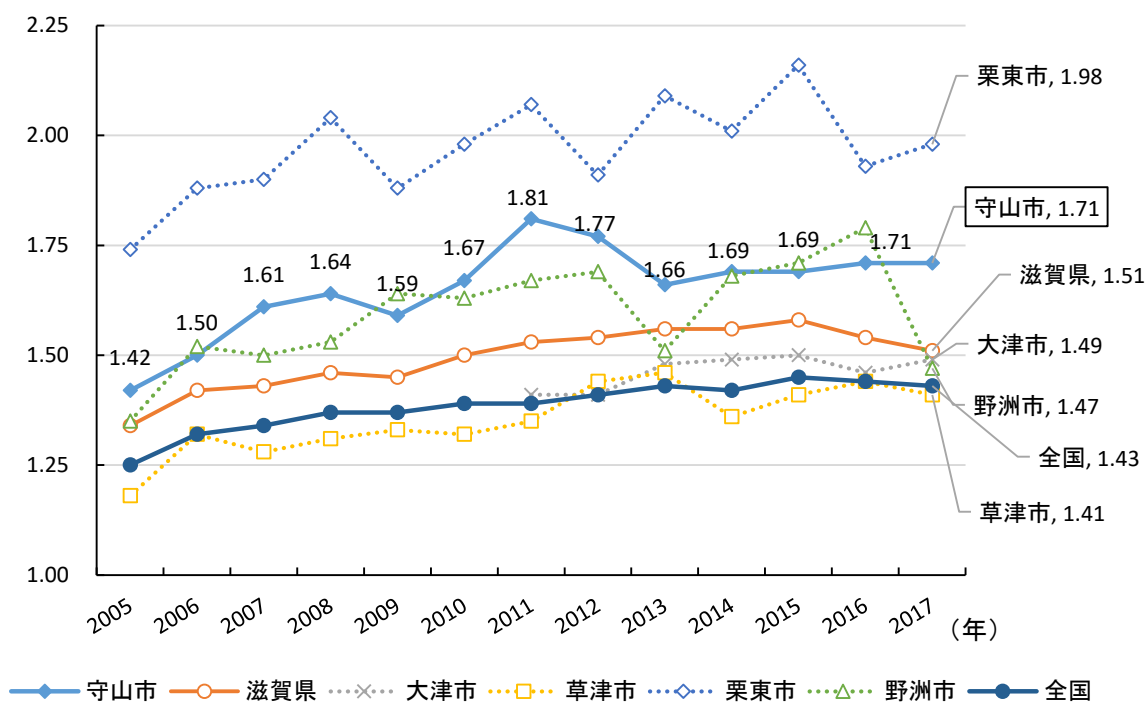


(資料) 厚生労働省「人口動態調査」

図 11 守山市における自然動態

(2) 合計特殊出生率の推移

- ・本市の合計特殊出生率は2017年で1.71であり、滋賀県を上回っている。
- ・県庁所在地である大津市および湖南3市（草津市、栗東市、野洲市）の中で比較すると、栗東市に次いで2番目に大きい値となっている。

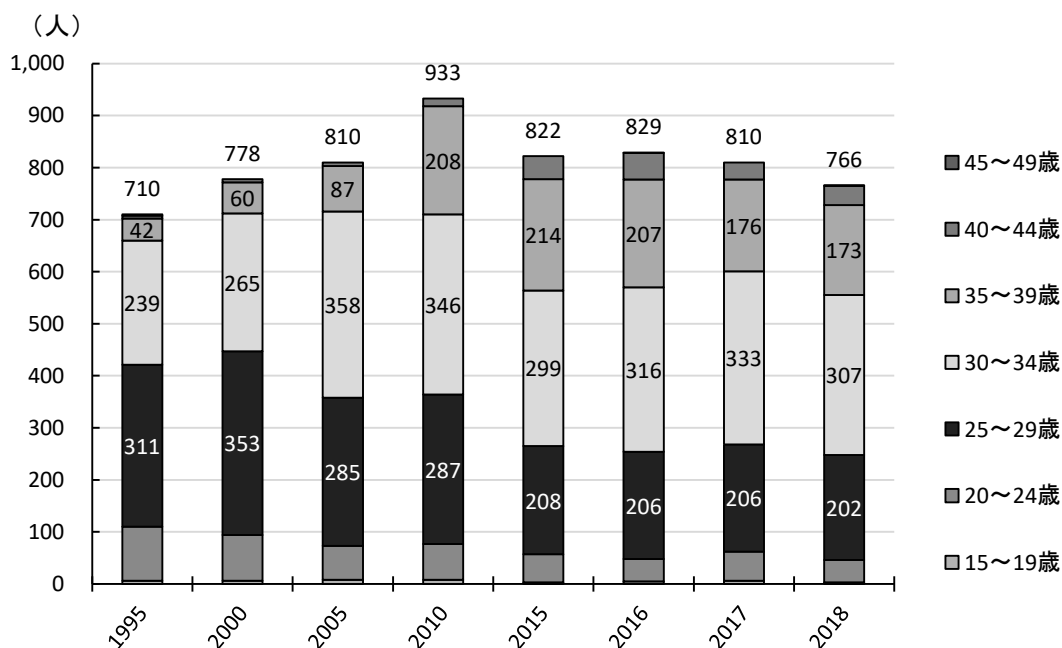


(資料) 南部健康福祉事務所(草津保健所)「(平成21～平成29年度)事業年報」(大津市除く)
 大津市保健所「(平成28～平成30年度)大津市保健所事業年報」(大津市)

図12 守山市および近隣自治体における合計特殊出生率の推移

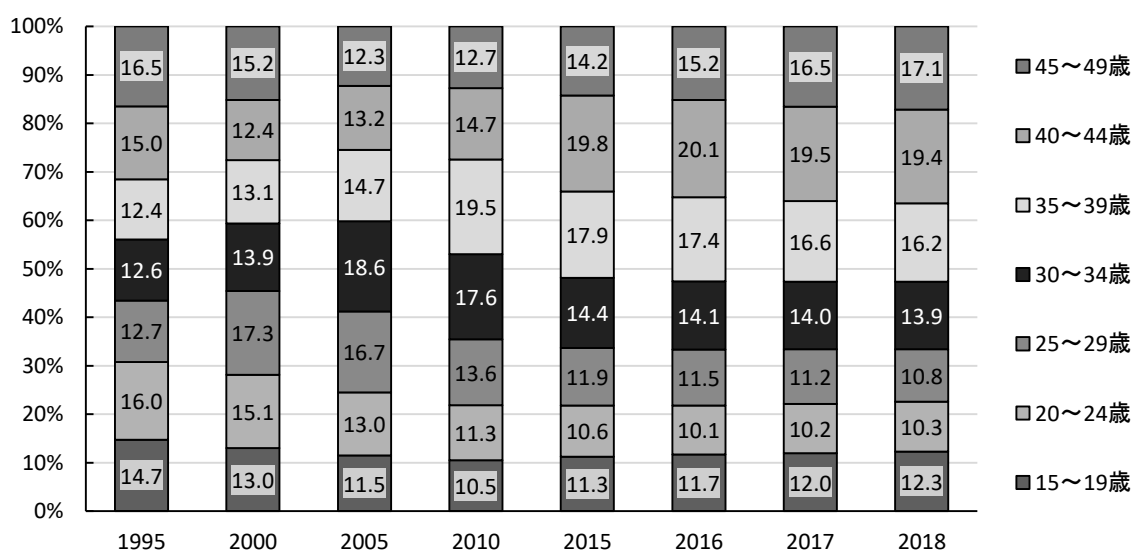
(3) 年齢別出生数の推移

- ・年齢別出生数をみると、20代の出生数は減少傾向にあり、30代の出生数は増加傾向にある（図13）。
- ・上記について、女性の年齢別人口割合をみると、20代女性の人口割合は減少傾向にあり、30代女性の人口割合は微増傾向にある（図14）。



(資料) 厚生労働省「人口動態調査」

図13 女性の年齢別出生数

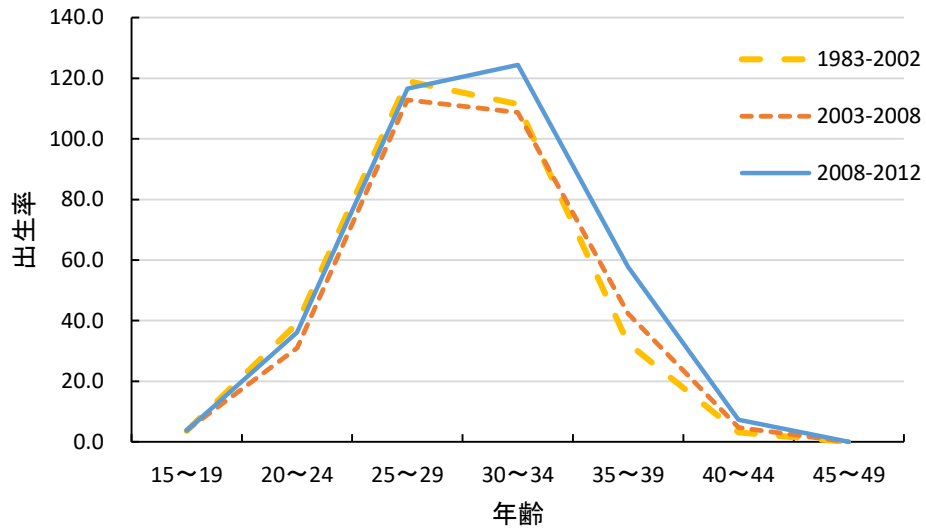


(資料) 厚生労働省「人口動態調査」

図14 15～49歳女性における年齢別人口割合

(4) 女性の年齢別出生率の推移

・年齢別出生率をみると、15～29歳の出生率に大きな変化はみられないが、30歳以上の出生率は近年高くなっている。



(資料) 厚生労働省「人口動態調査」

図 15 母の年齢別出生率（女性人口千人当たり）

4. 社会動態

本市の社会動態について、転出入の現況（市全体（男女合計）、男女別）、純移動の推移を以下に整理した。

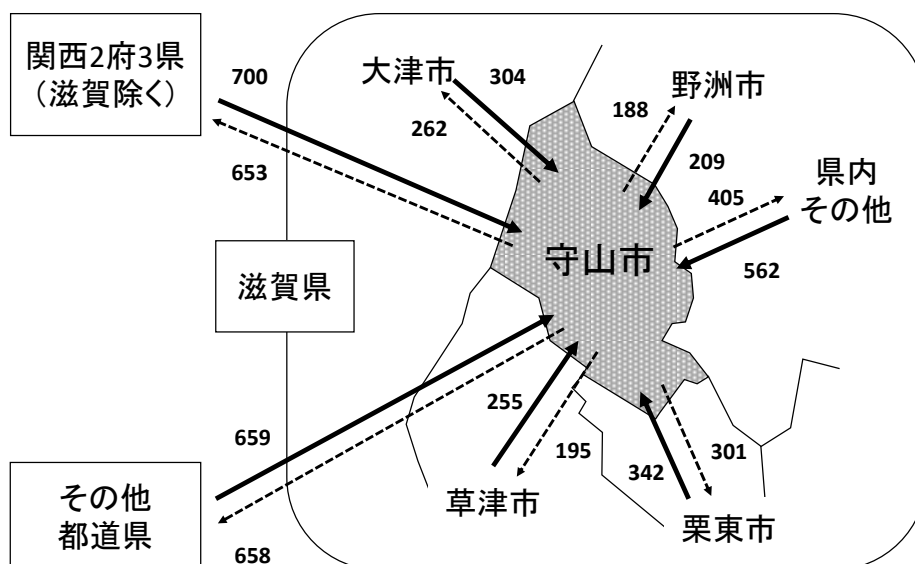
転出入の現況では、地域別、年齢別、年齢・地域別にそれぞれの動向を整理した。

なお県内の転出入については、県庁所在地である大津市と近隣市である湖南3市（草津市、栗東市、野洲市）に対する動向に着目した。

4.1 転出入の現況（市全体（男女合計））

(1) 地域別転出入の動向

・地域別転出入の動向を見ると、下図に示すいずれの地域に対しても転入超過となっている。



(資料) 総務省「住民基本台帳人口移動報告(2017年)」

図 16 地域別にみた転入・転出者数

表 1 地域別にみた転入・転出者数

【全体】	滋賀県	関西2府3県 (滋賀除く)	其他 都道県	合計 (全国)
転入	1,672	700	659	3,031
転出	1,351	653	658	2,662

(人)

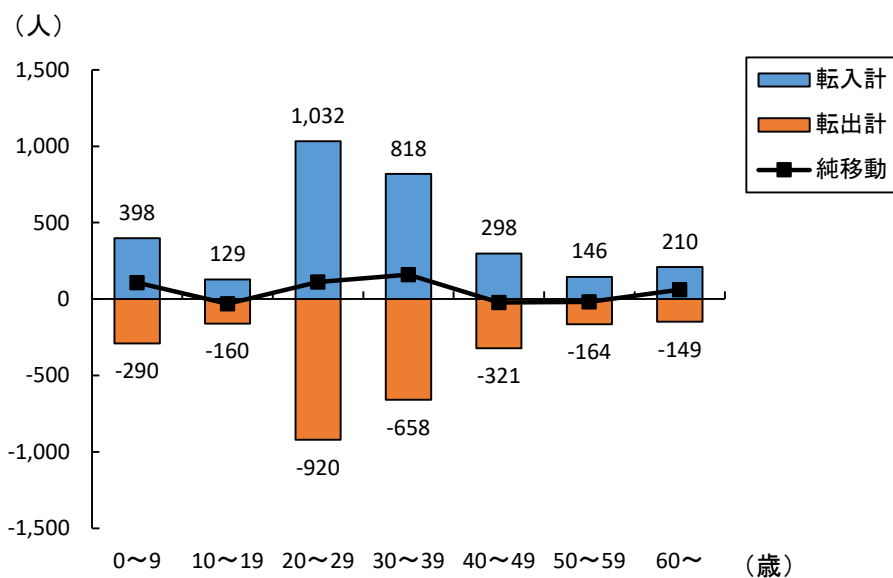
【県内】	大津市	草津市	栗東市	野洲市	県内 其他市町	合計 (滋賀県)
転入	304	255	342	209	562	1,672
転出	262	195	301	188	405	1,351

(人)

(資料) 総務省「住民基本台帳人口移動報告(2017年)」

(2) 年齢別転出入の動向

・全年齢合計で見ると転入超過であるが、年齢別にみると10～19歳、40～49歳、50～59歳で転出超過（20～30人程度）となっている。



(資料) 総務省「住民基本台帳人口移動報告 (2017年)」

図 17 守山市における年齢別転出入の動向

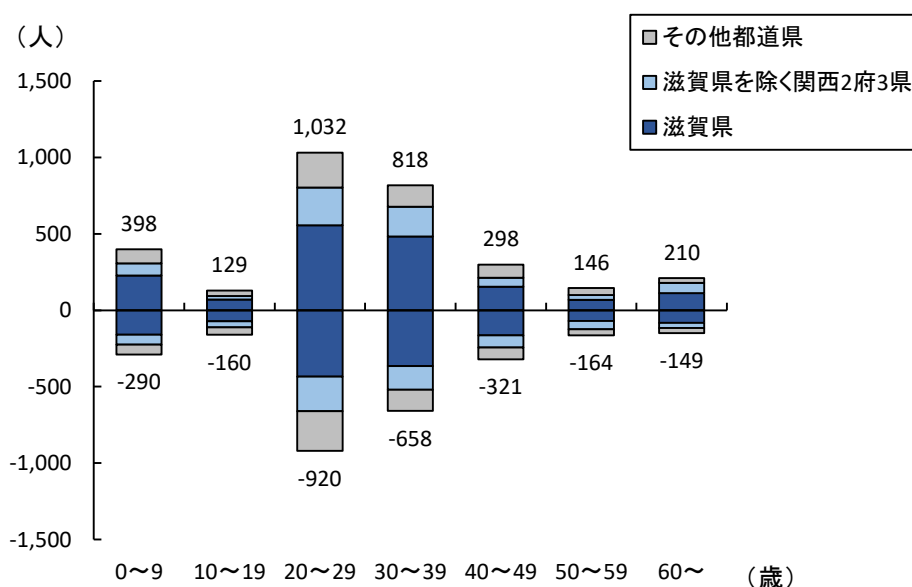
表 2 守山市における年齢別転出入の動向

	0～9歳	10～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60歳以上	全年齢合計
転入	398	129	1,032	818	298	146	210	3,031
転出	290	160	920	658	321	164	149	2,662
社会増減	108	-31	112	160	-23	-18	61	369

(資料) 総務省「住民基本台帳人口移動報告 (2017年)」

(3) 年齢・地域別転出入の動向

- ・ 転出超過となっている 10～19 歳、40～49 歳、50～59 歳の転出状況を地域別にみると、10～19 歳は主に県外、40～49 歳、50～59 歳は主に滋賀県を除く関西 2 府 3 県と滋賀県に対して転出超過となっている。
- ・ 滋賀県に対しては、転入超過が 321 人となっており、年齢別の内訳をみると 0～9 歳、20～29 歳、30～39 歳の転入超過が大きく、それぞれ 68 人、121 人、117 人となっている。これは子育て世代の転入がみられること、その子ども世代が増加していることを示していると考えられる。



(資料) 総務省「住民基本台帳人口移動報告 (2017 年)」

図 18 守山市の年齢別転出入の動向

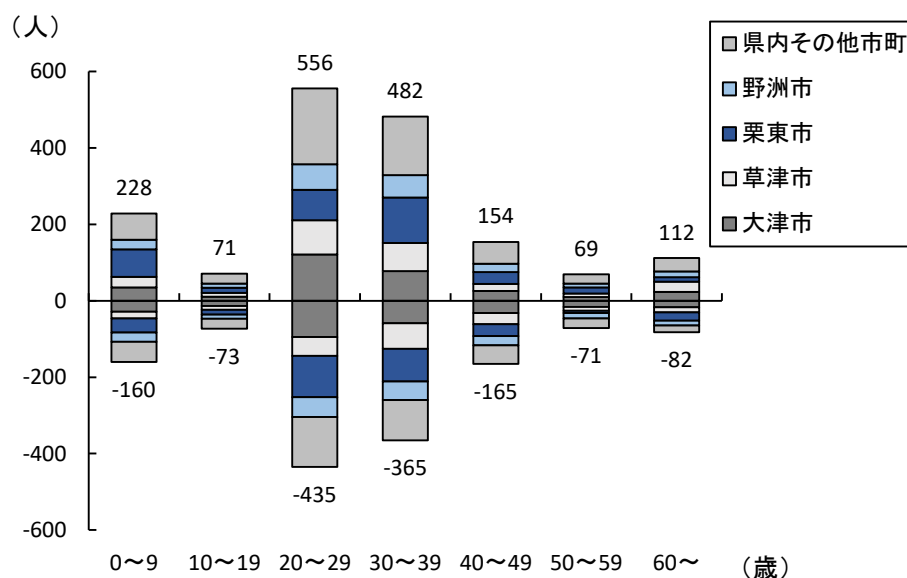
表 3 守山市の年齢別転出入の動向

	0～9 歳	10～19 歳	20～29 歳	30～39 歳	40～49 歳	50～59 歳	60 歳以上	地域別 全年齢合計
滋賀県	68	-2	121	117	-11	-2	30	321
関西 2 府 3 県 (滋賀除く)	14	-18	21	40	-20	-22	32	47
其他都道県	26	-11	-30	3	8	6	-1	1

(資料) 総務省「住民基本台帳人口移動報告 (2017 年)」

(4) 年齢・地域別転出入の動向（滋賀県内への転出入状況の分析）

- ・滋賀県に対して転入超過の大きい0～9歳、20～29歳、30～39歳を県内市町別にみると、20～29歳は特に草津市に対して大きく転入超過となっており、0～9歳、30～39歳は特に栗東市に対して大きく転入超過となっている。
- ・滋賀県に対して転出超過となっている50～59歳は、栗東市に対してのみ転入超過となっている。
- ・滋賀県に対して転入超過となっている20～29歳、60歳以上は、栗東市に対してのみ転出超過となっている。



（資料）総務省「住民基本台帳人口移動報告（2017年）」

図 19 滋賀県に対する守山市の年齢別転出入の動向

表 4 滋賀県に対する守山市の年齢別転出入の動向

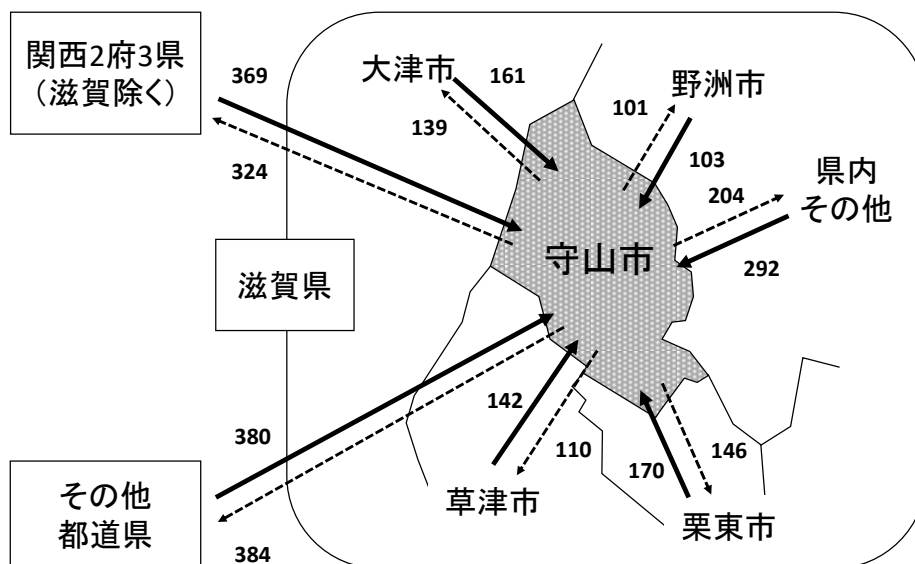
	0～9歳	10～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60歳以上	地域別 全年齢合計
大津市	6	-3	26	19	-6	-6	6	42
草津市	11	0	41	6	-11	-1	14	60
栗東市	35	1	-29	34	0	10	-10	41
野洲市	1	0	15	10	-3	-4	2	21
県内その他市町	15	0	68	48	9	-1	18	157
滋賀県合計	68	-2	121	117	-11	-2	30	321

（資料）総務省「住民基本台帳人口移動報告（2017年）」

4.2 転出入の現況（男性）

(1) 地域別転出入の動向（男性）

・男性の地域別転出入の動向を見ると、「その他都道県」で転出超過（4人）となっているほかは、下図に示すいずれの地域に対しても転入超過となっている。



（資料）総務省「住民基本台帳人口移動報告（2017年）」

図 20 地域別に見た転入・転出者数（男性）

表 5 地域別に見た転入・転出者数（男性）

（人）

【全体】	滋賀県	関西2府3県 (滋賀除く)	その他 都道県	合計 (全国)
転入	868	369	380	1,617
転出	700	324	384	1,408

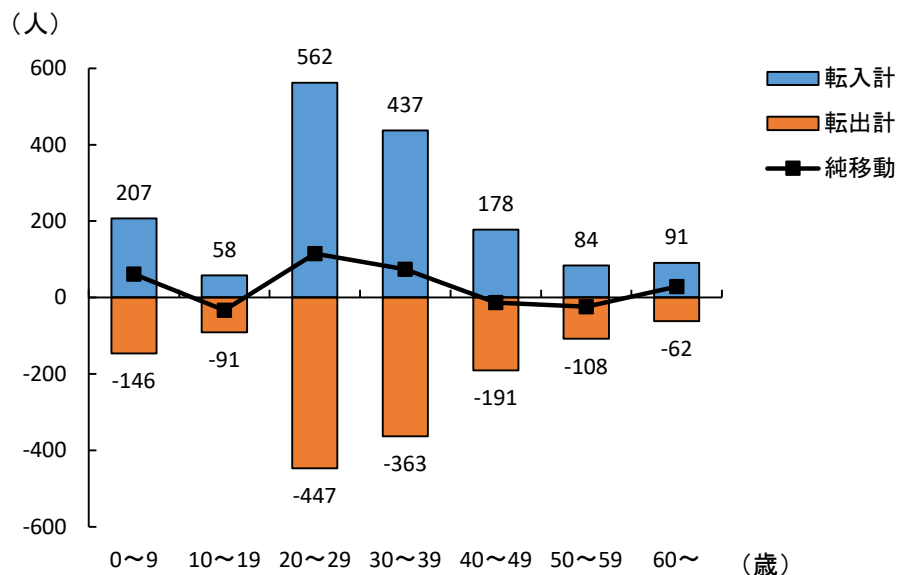
（人）

【県内】	大津市	草津市	栗東市	野洲市	県内 その他市町	合計 (滋賀県)
転入	161	142	170	103	292	868
転出	139	110	146	101	204	700

（資料）総務省「住民基本台帳人口移動報告（2017年）」

(2) 年齢別転出入の動向（男性）

・市全体（男女合計）（13 ページ）と同様、全年齢合計で見ると転入超過であるが、年齢別にみると 10～19 歳、40～49 歳、50～59 歳で転出超過（13～33 人）となっている。



（資料）総務省「住民基本台帳人口移動報告（2017 年）」

図 21 守山市における年齢別転出入の動向（男性）

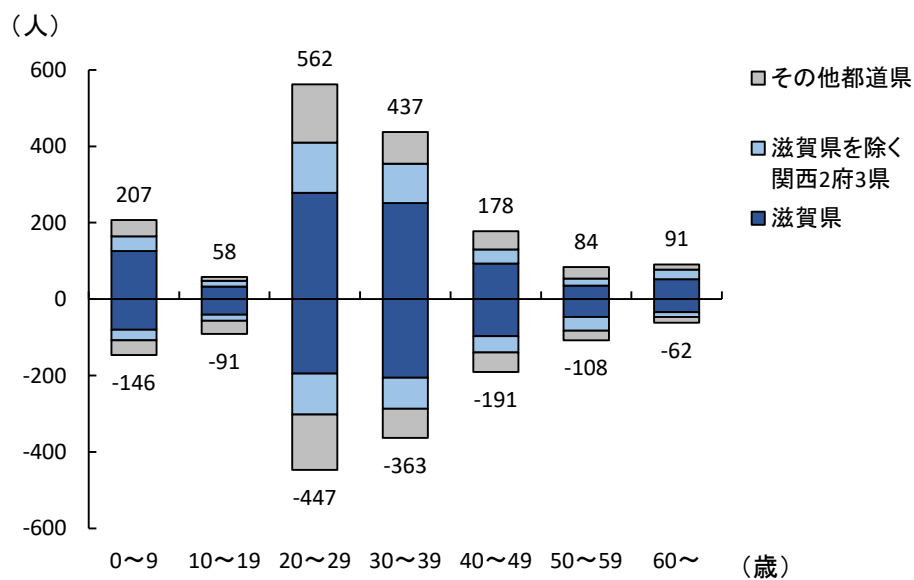
表 6 守山市における年齢別転出入の動向（男性）

	0～9 歳	10～19 歳	20～29 歳	30～39 歳	40～49 歳	50～59 歳	60 歳以上	全年齢合計
転入	207	58	562	437	178	84	91	1,617
転出	146	91	447	363	191	108	62	1,408
社会増減	61	-33	115	74	-13	-24	29	209

（資料）総務省「住民基本台帳人口移動報告（2017 年）」

(3) 年齢・地域別転出入の動向（男性）

- ・ 転出超過となっている 10～19 歳、40～49 歳、50～59 歳の転出状況を地域別にみると、10～19 歳は主に関西圏を除く県外、40～49 歳、50～59 歳は関西圏と滋賀県に対して転出超過となっている。
- ・ 滋賀県に対しては、転入超過が 168 人となっており、年齢別の内訳をみると 0～9 歳、20～29 歳、30～39 歳の転入超過が大きく、それぞれ 46 人、83 人、45 人となっている。



（資料）総務省「住民基本台帳人口移動報告（2017年）」

図 22 守山市の年齢別転出入の動向（男性）

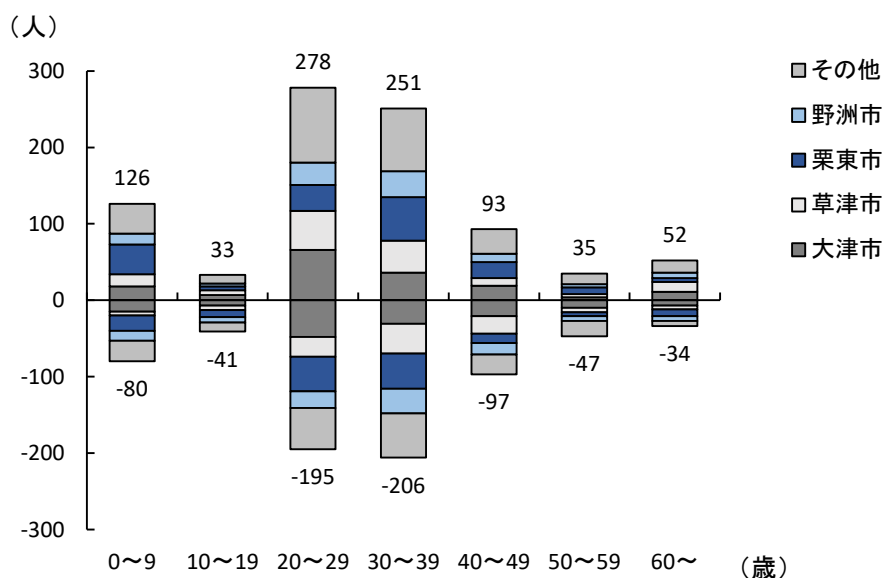
表 7 守山市の年齢別転出入の動向（男性）

	0～9 歳	10～19 歳	20～29 歳	30～39 歳	40～49 歳	50～59 歳	60 歳以上	地域別 全年齢合計
滋賀県	46	-8	83	45	-4	-12	18	168
関西 2 府 3 県 (滋賀除く)	10	-1	25	22	-6	-17	12	45
其他都道県	5	-24	7	7	-3	5	-1	-4

（資料）総務省「住民基本台帳人口移動報告（2017年）」

(4) 年齢・地域別転出入の動向（県内への転出入状況の分析）（男性）

- ・滋賀県に対して転入超過の大きい0～9歳、20～29歳、30～39歳を県内市町別にみると、20～29歳は特に草津市に対して大きく転入超過となっており、0～9歳、30～39歳は特に栗東市に対して大きく転入超過となっている。
- ・滋賀県に対して転出超過となっている50～59歳は、栗東市に対してのみ転入超過となっている。
- ・滋賀県に対して転入超過となっている20～29歳、60歳以上は、栗東市に対してのみ転出超過となっている。



（資料）総務省「住民基本台帳人口移動報告（2017年）」

図 23 滋賀県に対する守山市の年齢別転出入の動向（男性）

表 8 滋賀県に対する守山市の年齢別転出入の動向（男性）

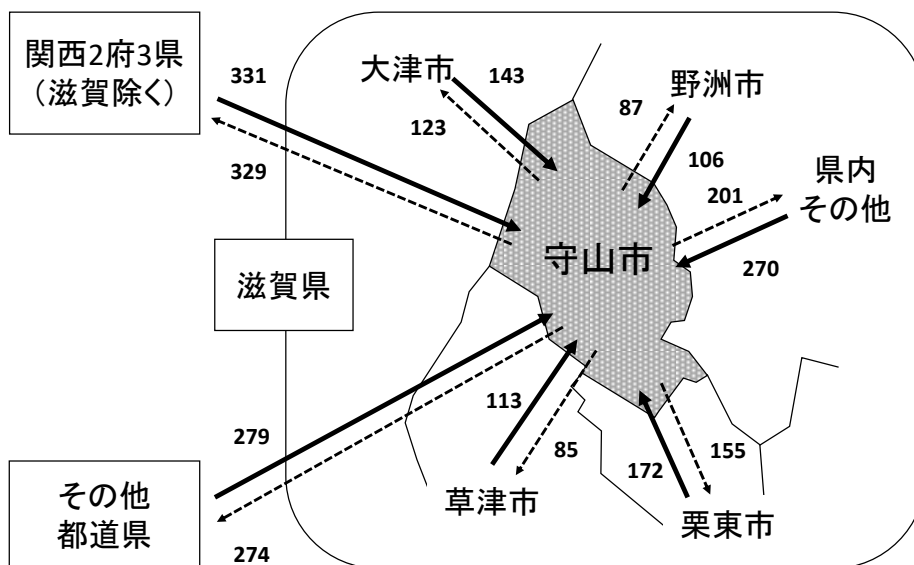
	0～9歳	10～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60歳以上	地域別 全年齢合計
大津市	3	0	18	5	-2	-6	4	22
草津市	11	0	25	3	-13	-2	8	32
栗東市	19	-4	-11	11	9	4	-4	24
野洲市	1	-3	7	2	-4	-2	1	2
県内その他市町	12	-1	44	24	6	-6	9	88
滋賀県合計	46	-8	83	45	-4	-12	18	168

（資料）総務省「住民基本台帳人口移動報告（2017年）」

4.3 転出入の現況（女性）

(1) 地域別転出入の動向（女性）

・地域別転出入の動向を見ると、下図に示すいずれの地域に対しても転入超過となっている。



（資料）総務省「住民基本台帳人口移動報告（2017年）」

図 24 地域別に見た転入・転出者数（女性）

表 9 地域別に見た転入・転出者数（女性）

（人）

【全体】	滋賀県	関西2府3県 (滋賀除く)	その他 都道県	合計 (全国)
転入	804	331	279	1,414
転出	651	329	274	1,254

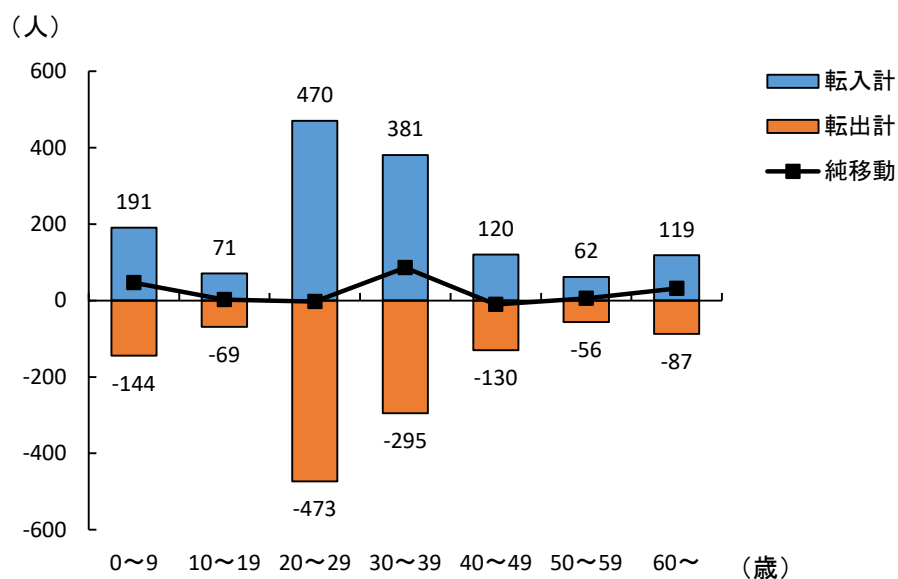
（人）

【県内】	大津市	草津市	栗東市	野洲市	県内 その他市町	合計 (滋賀県)
転入	143	113	172	106	270	804
転出	123	85	155	87	201	651

（資料）総務省「住民基本台帳人口移動報告（2017年）」

(2) 年齢別転出入の動向（女性）

・全年齢合計で見ると転入超過であるが、年齢別にみると20～29歳、40～49歳で転出超過（3～10人程度）となっている。



（資料）総務省「住民基本台帳人口移動報告（2017年）」

図 25 守山市における年齢別転出入の動向（女性）

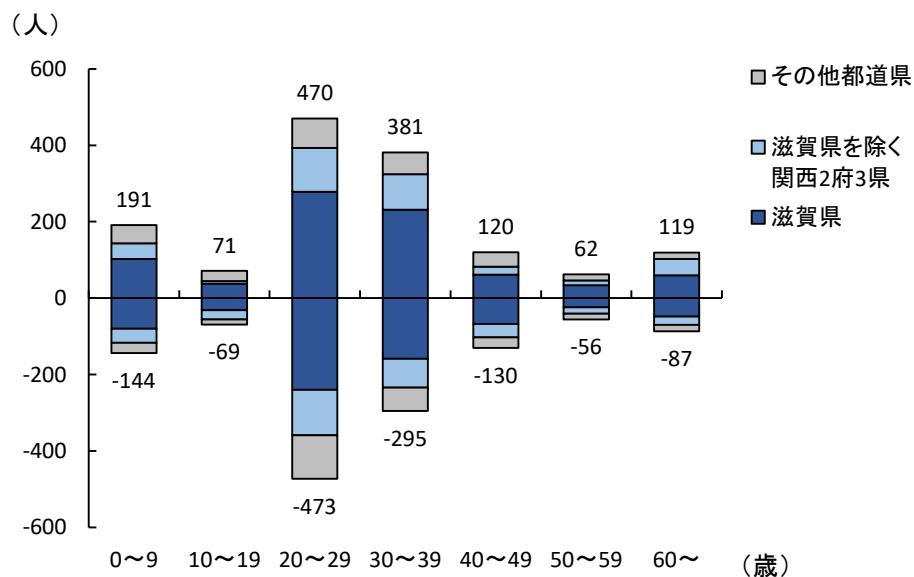
表 10 守山市における年齢別転出入の動向（女性）

	0～9歳	10～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60歳以上	全年齢合計
転入	191	71	470	381	120	62	119	1,414
転出	144	69	473	295	130	56	87	1,254
社会増減	47	2	-3	86	-10	6	32	160

（資料）総務省「住民基本台帳人口移動報告（2017年）」

(3) 年齢・地域別転出入の動向（女性）

- ・ 転出超過となっている 20～29 歳、40～49 歳の転出状況を地域別にみると、20～29 歳は主に県外、40～49 歳は関西圏と滋賀県に対して転出超過となっている。
- ・ 滋賀県に対しては、転入超過が 153 人となっており、年齢別の内訳をみると 0～9 歳、20～29 歳、30～39 歳の転入超過が大きく、それぞれ 22 人、38 人、72 人となっている。



（資料）総務省「住民基本台帳人口移動報告（2017年）」

図 26 守山市の年齢別転出入の動向（女性）

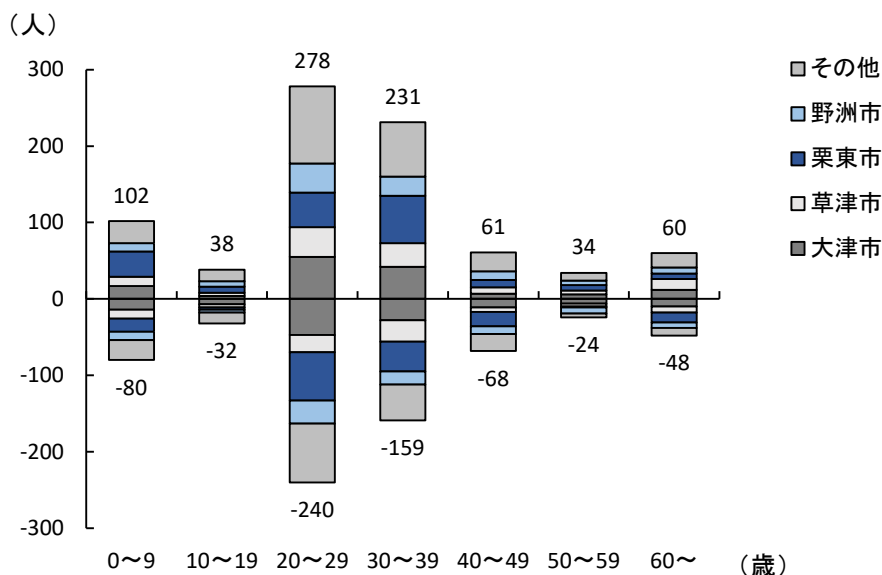
表 11 守山市の年齢別転出入の動向（女性）

	0～9 歳	10～19 歳	20～29 歳	30～39 歳	40～49 歳	50～59 歳	60 歳以上	地域別 全年齢合計
滋賀県	22	6	38	72	-7	10	12	153
関西 2 府 3 県 (滋賀除く)	4	-17	-4	18	-14	-5	20	2
其他都道県	21	13	-37	-4	11	1	0	5

（資料）総務省「住民基本台帳人口移動報告（2017年）」

(4) 年齢・地域別転出入の動向（県内への転出入状況の分析）（女性）

- ・滋賀県に対して転入超過の大きい0～9歳、20～29歳、30～39歳を県内市町別にみると、20～29歳は特に草津市に対して大きく転入超過となっており、0～9歳、30～39歳は特に栗東市に対して大きく転入超過となっている。
- ・滋賀県に対して転入超過となっている20～29歳、60歳以上は、栗東市に対してのみ転出超過となっている。



（資料）総務省「住民基本台帳人口移動報告（2017年）」

図 27 滋賀県に対する守山市の年齢別転出入の動向（女性）

表 12 滋賀県に対する守山市の年齢別転出入の動向（女性）

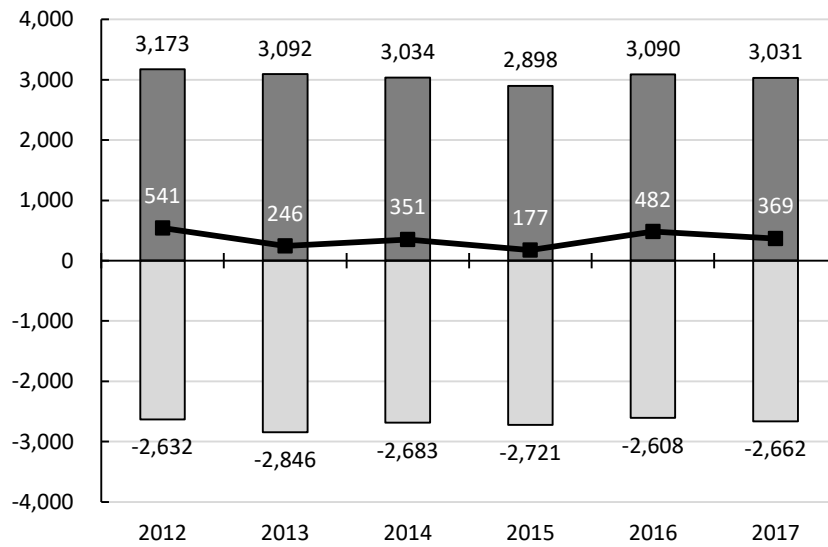
	0～9歳	10～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60歳以上	地域別 全年齢合計
大津市	3	-3	8	14	-4	0	2	20
草津市	0	0	16	3	2	1	6	28
栗東市	16	5	-18	23	-9	6	-6	17
野洲市	0	3	8	8	1	-2	1	19
県内その他市町	3	1	24	24	3	5	9	69
滋賀県合計	22	6	38	72	-7	10	12	153

（資料）総務省「住民基本台帳人口移動報告（2017年）」

4.4 転出入の経年変化

(1) 転出入の経年変化

・転出入の推移をみると、転入は 3,000 人程度、転出は 2,700 人程度で推移しており、転入超過が続いている。

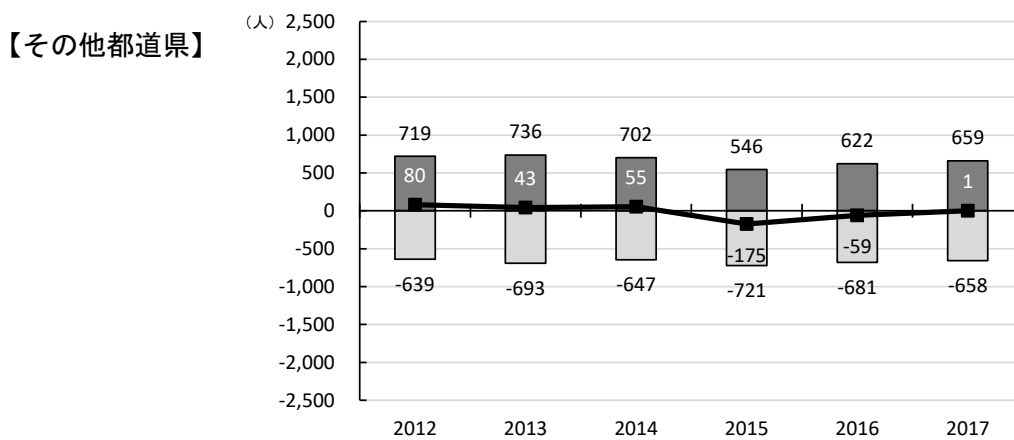
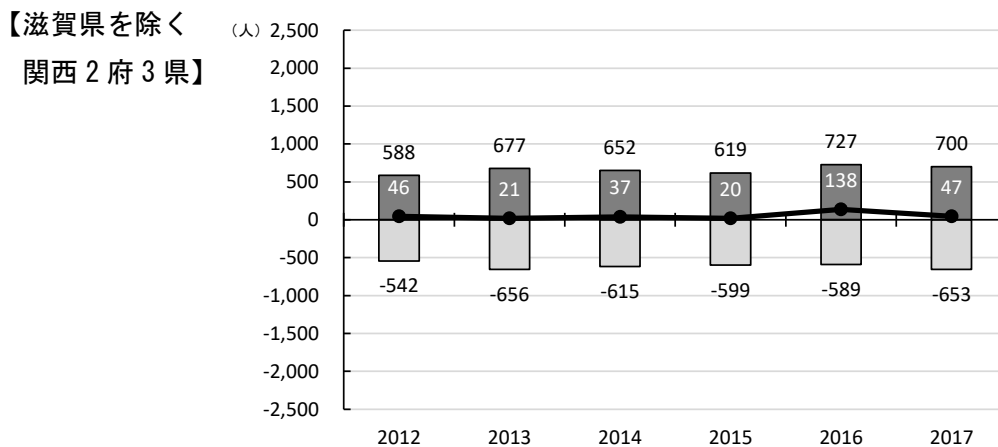
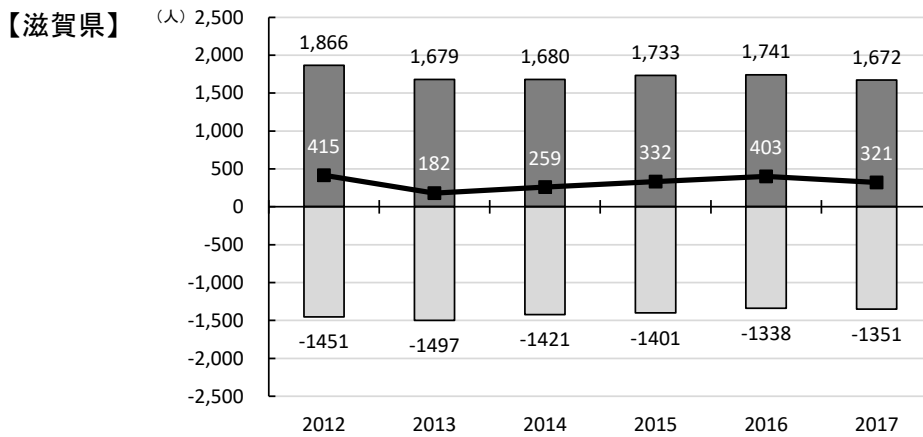


(資料) 総務省「住民基本台帳人口移動報告」

図 28 転出入の推移

(2) 地域別転出入の経年変化

- ・滋賀県については転入超過が続いているが、転入数転出数ともに減少傾向にある。
- ・滋賀県を除く関西 2 府 3 県については転入超過が続いており、転入数転出数ともに増加傾向にある。
- ・その他都道府県については、2015 年、2016 年で転出超過がみられた。2015 年から 2017 年にかけては、転入数は増加しており、転出数は減少している



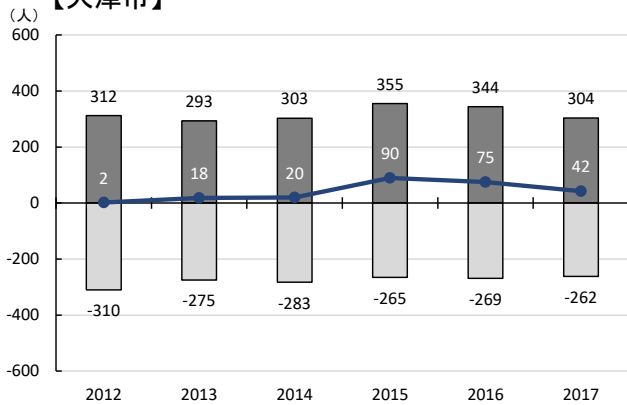
(資料) 総務省「住民基本台帳人口移動報告」

図 29 地域別転出入の推移

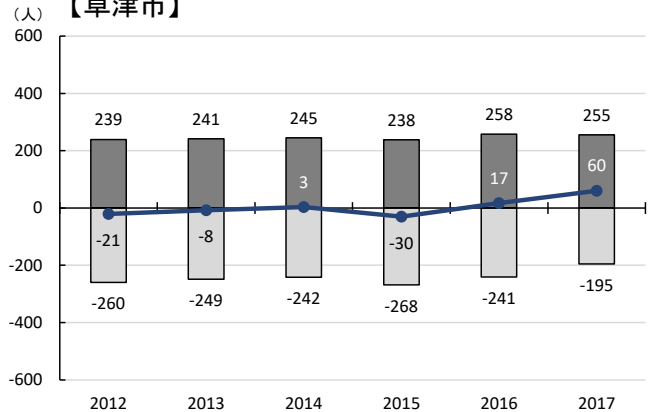
(3) 地域別転出入の経年変化（滋賀県内）

- ・大津市については転入超過が続いており、2015年に大きく転入超過となった。以降は転入数転出数ともに減少傾向にある。
- ・草津市については、転入数は微増傾向にあり、転出数は減少傾向にある。
- ・栗東市については、転入数は2012年をピークに2013年以降は横ばいである。転出数は増減を繰り返している。
- ・野洲市については、転入数は2012年をピークに2013年以降は横ばいである。転出数は増減を繰り返している。

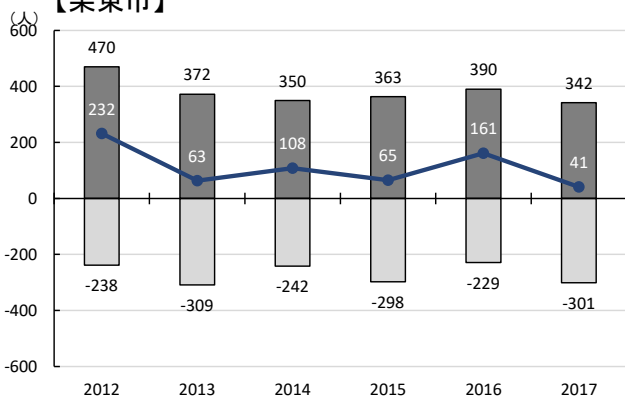
【大津市】



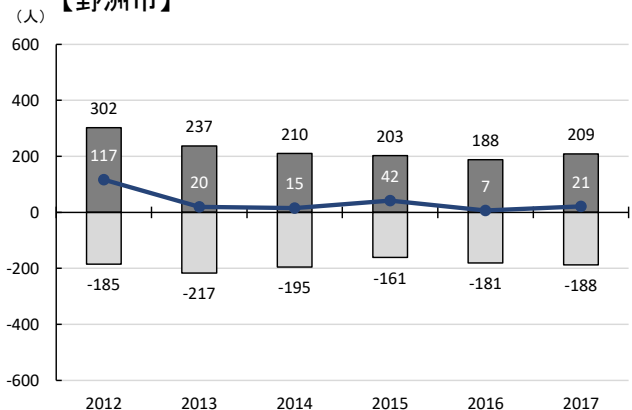
【草津市】



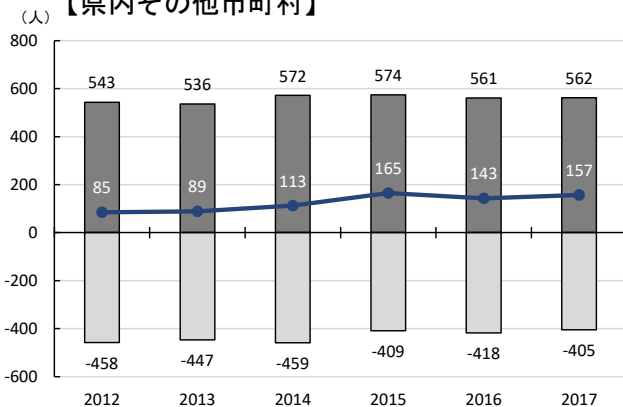
【栗東市】



【野洲市】



【県内その他市町村】



(資料) 総務省「住民基本台帳人口移動報告」

図 30 地域別転出入（滋賀県内）の推移

(4) 年齢別純移動の経年変化

全体（図 31）

- ・「35～39 歳から 40～44 歳になるとき」の転入超過は、近年増加傾向にある。
- ・「20～24 歳から 25～29 歳になるとき」にみられる大幅な転入超過は、近年縮小してきている。

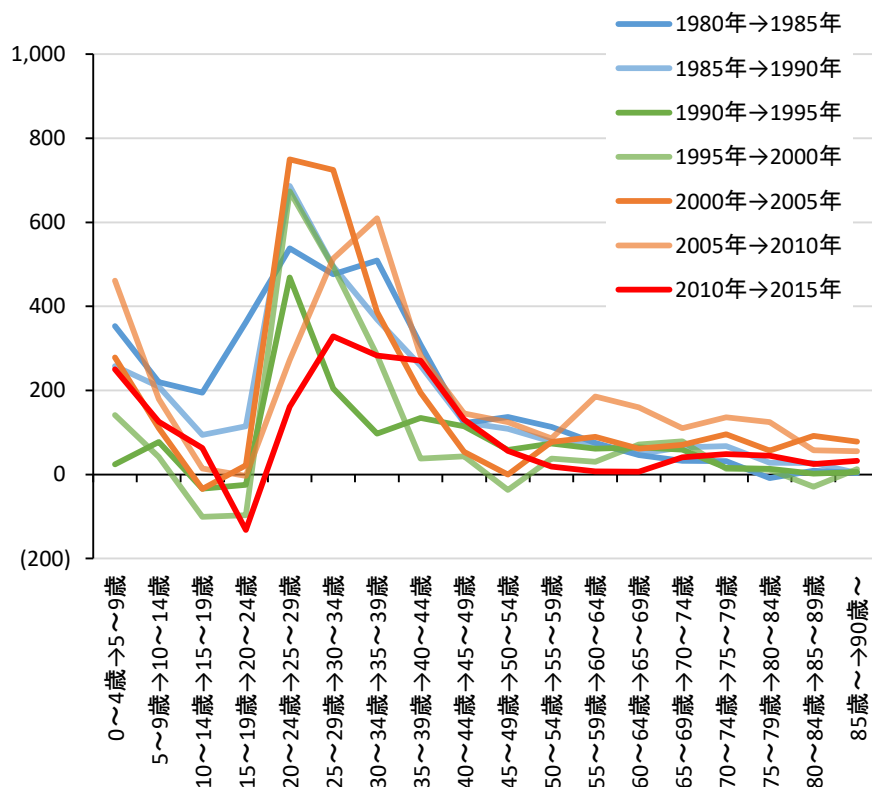
男性（図 32 上）

- ・近年、転入超過のピークは、「20～24 歳から 25～29 歳になるとき」から「25～29 歳から 30～34 歳になるとき」へと移動してきている。
- ・「15～19 歳から 20～24 歳になるとき」は 1990 年代では大きく転出超過となっていたが、近年縮小傾向にある。

女性（図 32 下）

- ・近年、転入超過のピークは、「20～24 歳から 25～29 歳になるとき」から「30～34 歳から 35 歳～39 歳になるとき」へと移動してきている。
- ・「15～19 歳から 20～24 歳になるとき」の転入超過数は減少傾向にあり、2005 年→2010 年で転出超過へと転じている。

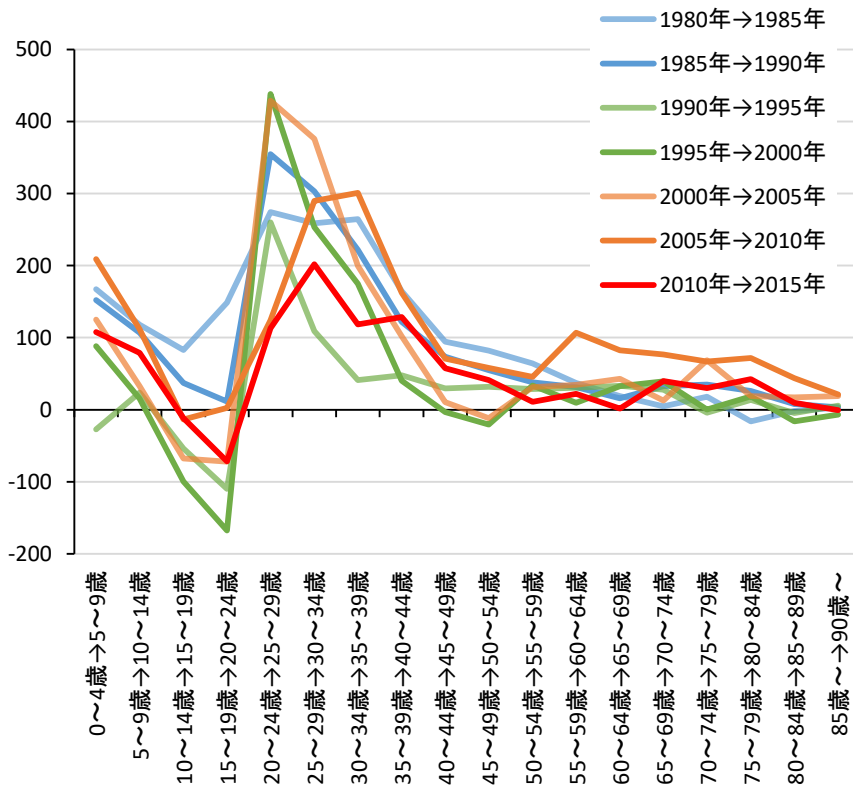
【全体】



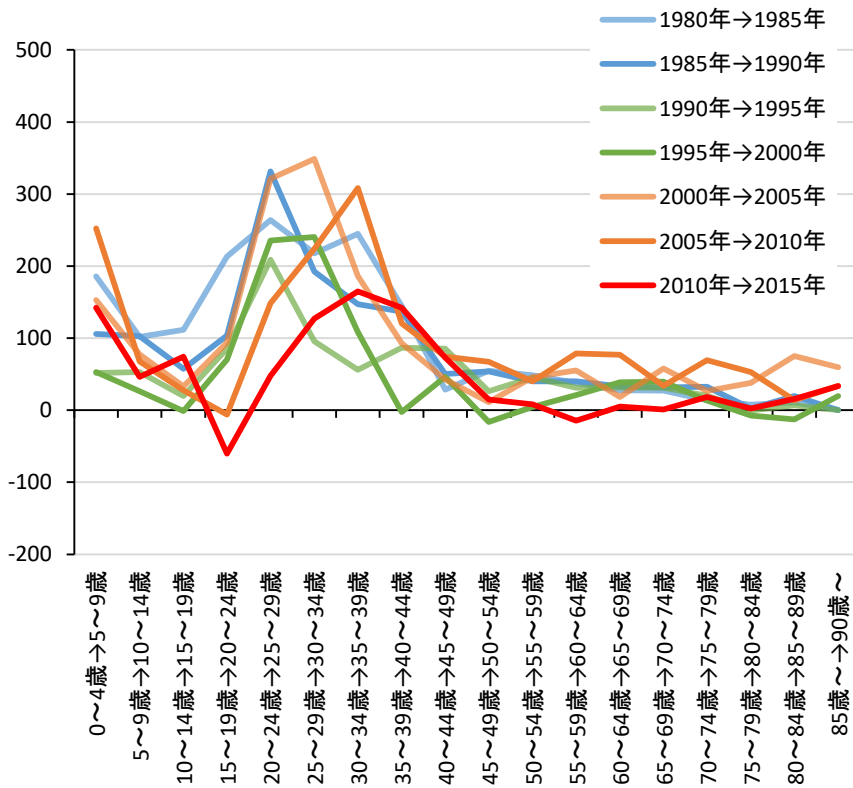
（資料）総務省「住民基本台帳人口移動報告」

図 31 年齢階級別純移動の推移

【男性】



【女性】



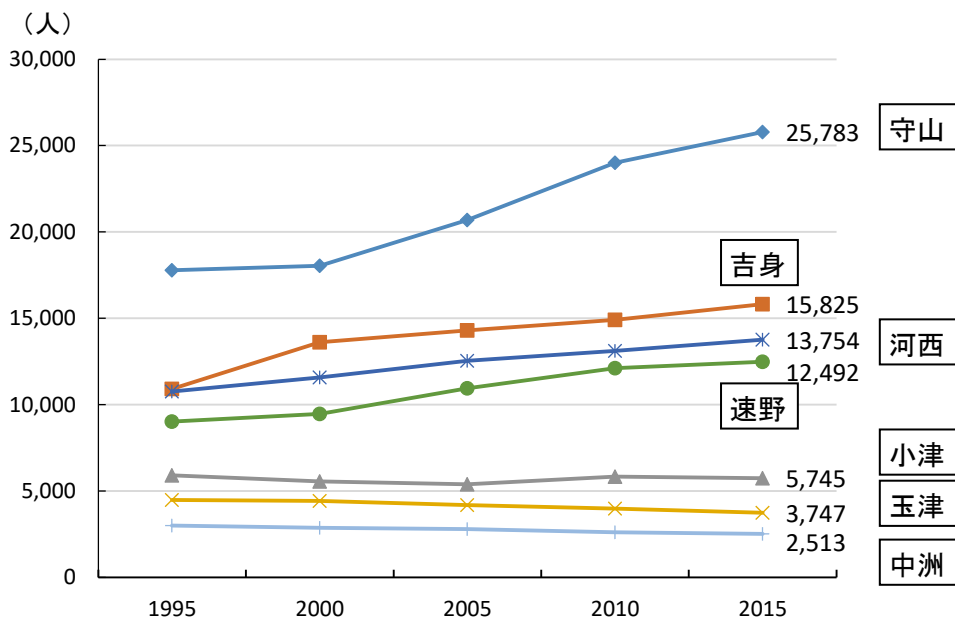
(資料) 総務省「住民基本台帳人口移動報告」

図 32 男女・年齢階級別純移動の推移

5. 学区別の動向

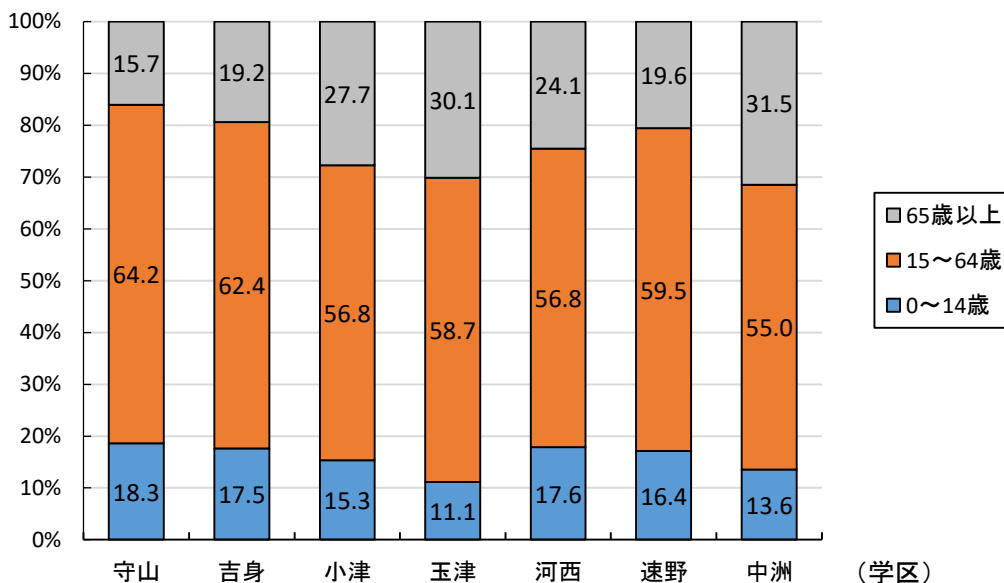
(1) 学区別人口の推移

- ・学区別人口の推移をみると、小津、玉津、中洲学区は横ばい傾向にあるのに対し、守山、吉身、河西、速野学区は増加傾向を示している（図 33）。
- ・2015 年における学区別の年齢 3 区分比率をみると、玉津、中洲学区は 65 歳以上の割合が 30%を超えている（図 34）。



(資料) 総務省「国勢調査」

図 33 学区別総人口の推移



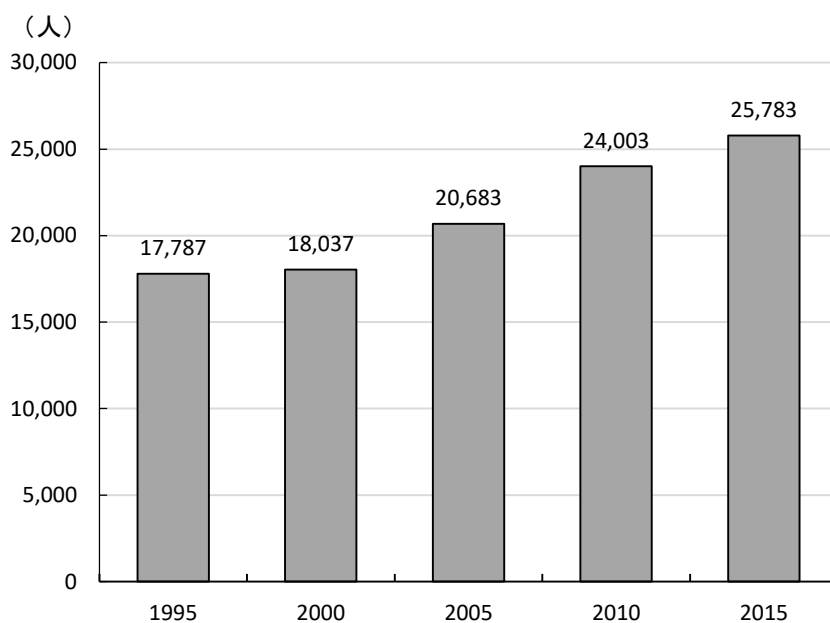
(学区)

(資料) 総務省「国勢調査」

図 34 学区別の年齢 3 区分比率 (2015 年)

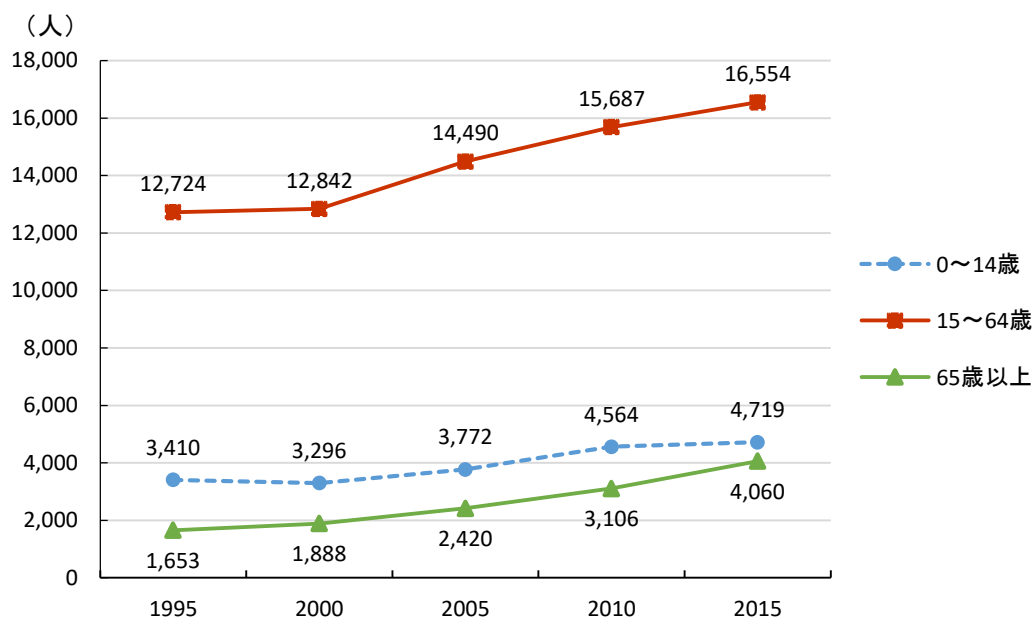
(2) 守山学区の人口の推移

- ・ 2000 年以降の人口の伸びは、1995 年から 2000 年の人口の伸びと比較して、大きくなっている（図 35）。
- ・ いずれの年齢区分でも増加傾向にあり、特に 15～64 歳人口の増加が著しい（図 36）。



(資料) 総務省「国勢調査」

図 35 総人口の推移（守山学区）

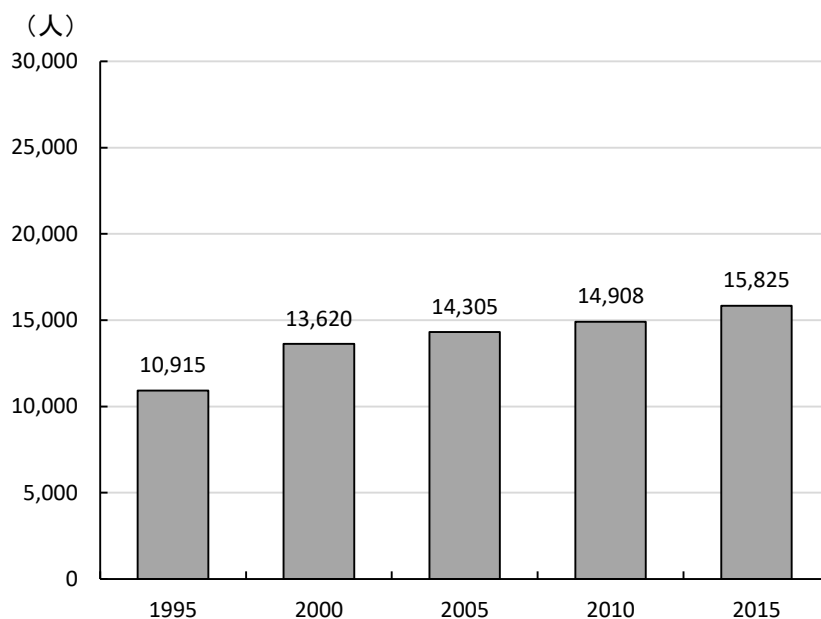


(資料) 総務省「国勢調査」

図 36 年齢 3 区分別人口の推移（守山学区）

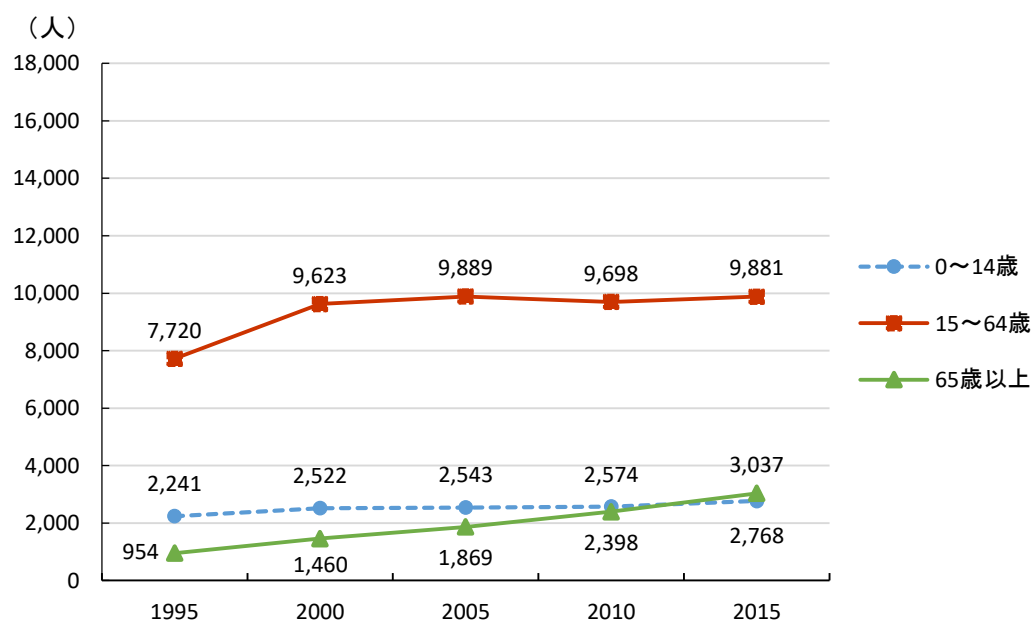
(3) 吉身学区の人口の推移

- ・吉身学区の総人口は1995年から2000年にかけて大きく増加し、以降は緩やかな増加傾向にある（図37）。
- ・2000年以降、特に65歳以上人口が大きく増加している（図38）。
- ・1995年から2010年までは、0～14歳人口が65歳以上人口を上回っていたが、2015年では下回っている。



(資料) 総務省「国勢調査」

図37 総人口の推移 (吉身学区)

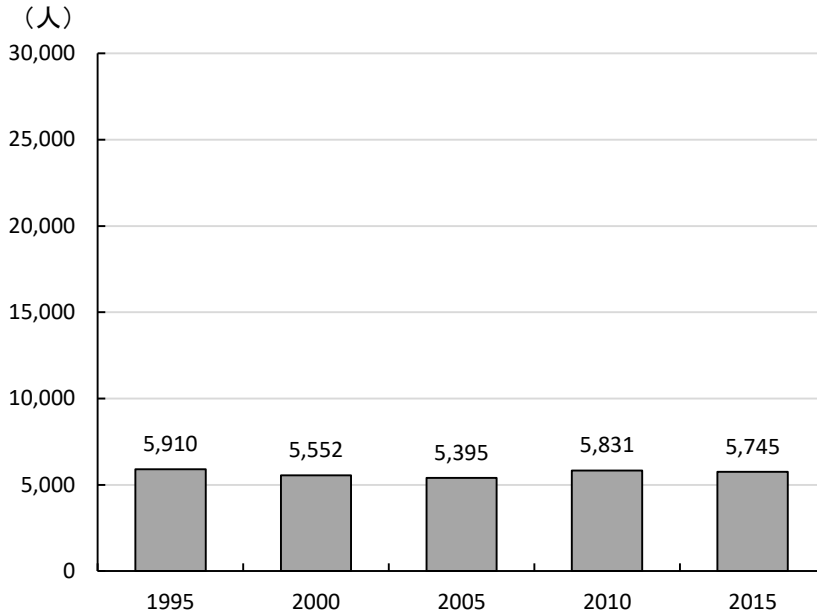


(資料) 総務省「国勢調査」

図38 年齢3区分別人口の推移 (吉身学区)

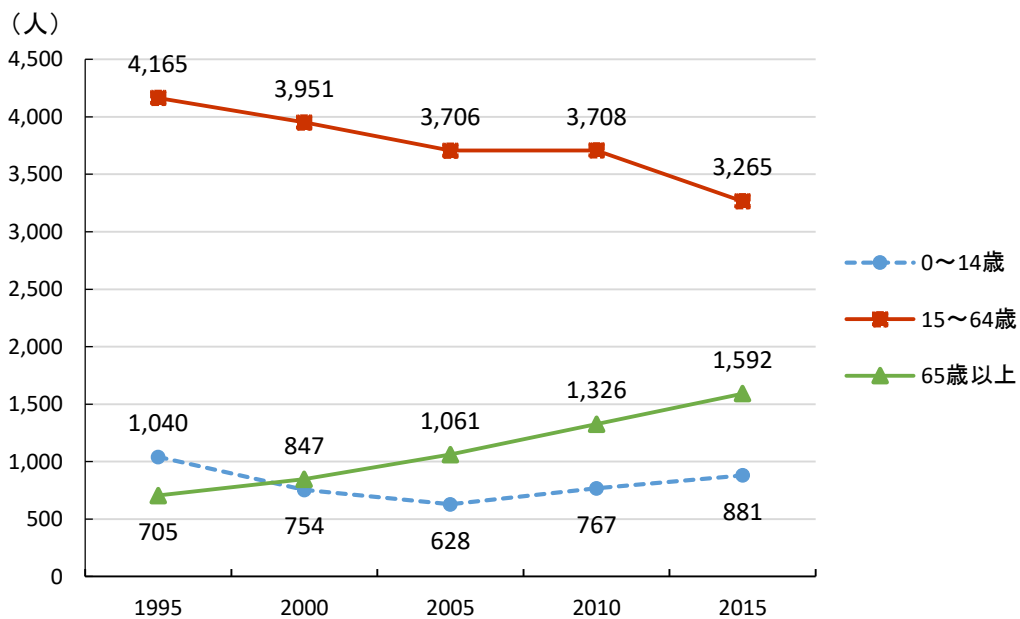
(4) 小津学区の人口の推移

- ・小津学区の総人口は、横ばい傾向にある（図 39）。
- ・15～64 歳人口が減少しているのに対し、65 歳以上人口は増加している（図 40）。0～14 歳人口は 1995 年から 2005 年にかけて減少し、2005 年は以降増加傾向にある。
- ・1995 年は 0～14 歳人口が 65 歳以上人口を上回っていたが、2000 年以降は下回っている。



（資料）総務省「国勢調査」

図 39 総人口の推移（小津学区）

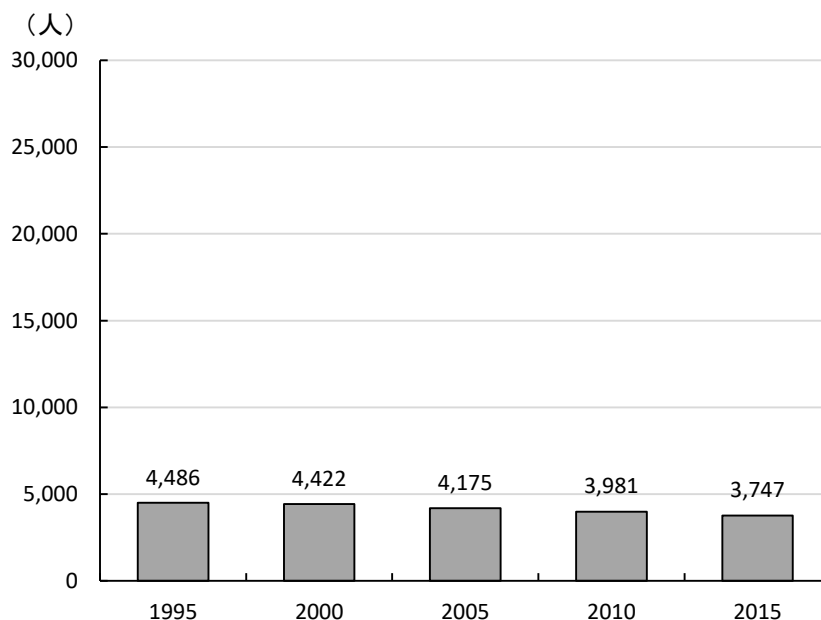


（資料）総務省「国勢調査」

図 40 年齢 3 区分別人口の推移（小津学区）

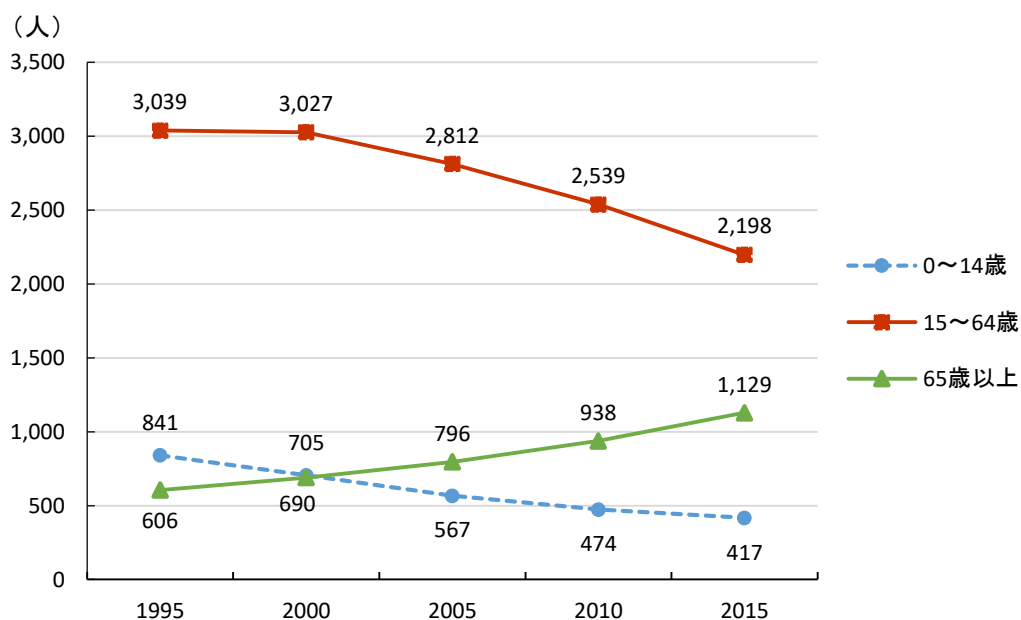
(5) 玉津学区の人口の推移

- ・玉津学区の総人口は減少傾向にある（図 41）。
- ・0～14 歳人口、15～65 歳人口は減少しており、65 歳以上人口は増加している（図 42）。
- ・1995 年から 2000 年までは、0～14 歳人口が 65 歳以上人口を上回っていたが、2005 年以降は下回っている。



（資料）総務省「国勢調査」

図 41 総人口の推移（玉津学区）

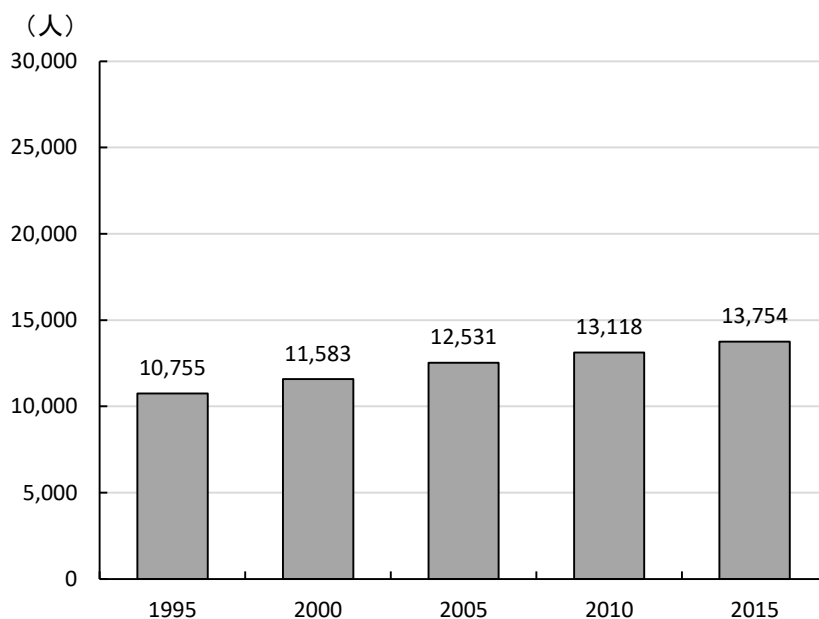


（資料）総務省「国勢調査」

図 42 年齢3区分別人口の推移（玉津学区）

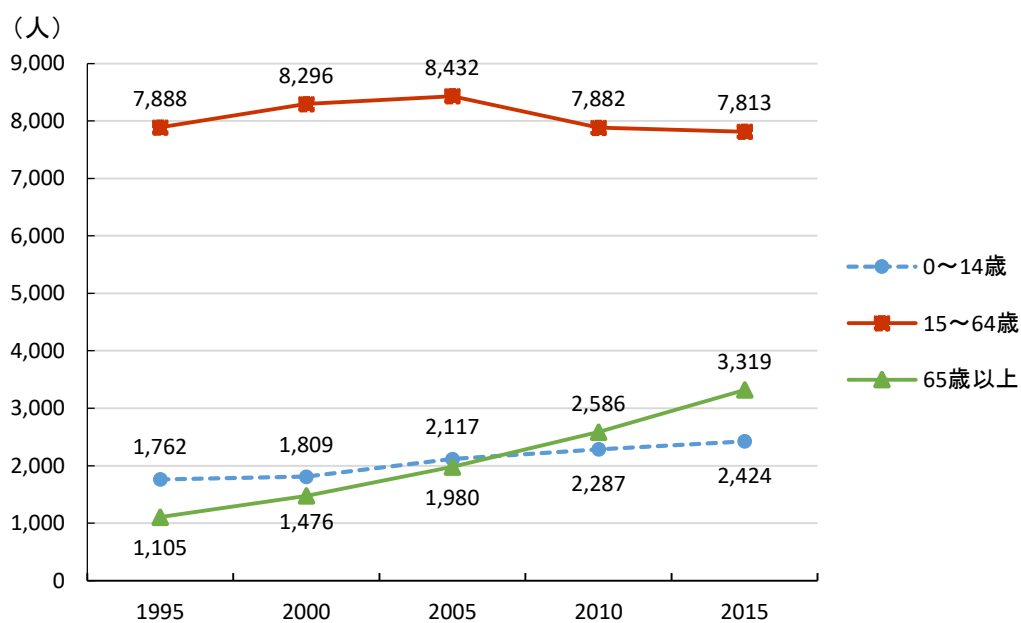
(6) 河西学区の人口の推移

- ・河西学区の総人口は増加傾向にある（図 43）。
- ・15～64 歳人口は 2010 年以降減少している（図 44）。0～14 歳人口、65 歳以上人口はどちらも増加傾向にある。
- ・1995 年から 2005 年までは、0～14 歳人口が 65 歳以上人口を上回っていたが、2010 年以降は下回っている。



（資料）総務省「国勢調査」

図 43 総人口の推移（河西学区）

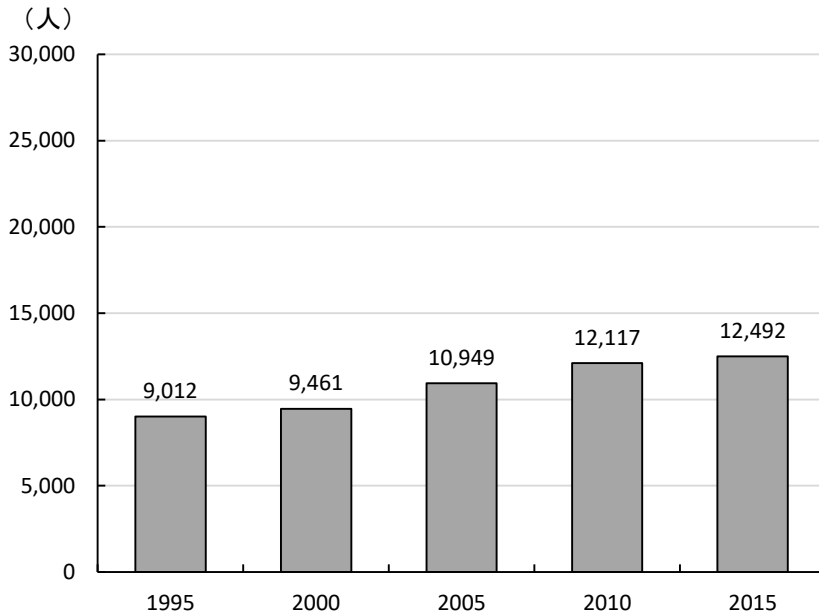


（資料）総務省「国勢調査」

図 44 年齢3区分別人口の推移（河西学区）

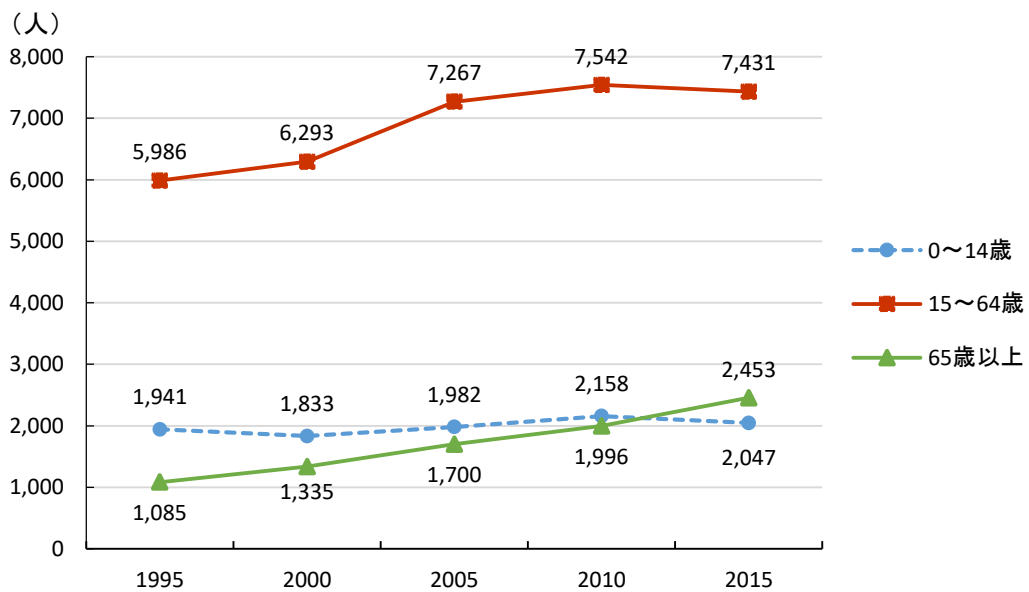
(7) 速野学区の人口の推移

- ・速野学区の総人口は増加傾向にある（図 45）。
- ・15～64 歳人口は 2005 年以降横ばいである（図 45 図 46）。0～14 歳人口は 2000 年以降微増していたが、2015 年に減少した。65 歳以上は増加傾向にある。
- ・1995 年から 2010 年までは、0～14 歳人口が 65 歳以上人口を上回っていたが、2015 年では下回っている。



(資料) 総務省「国勢調査」

図 45 総人口の推移（速野学区）

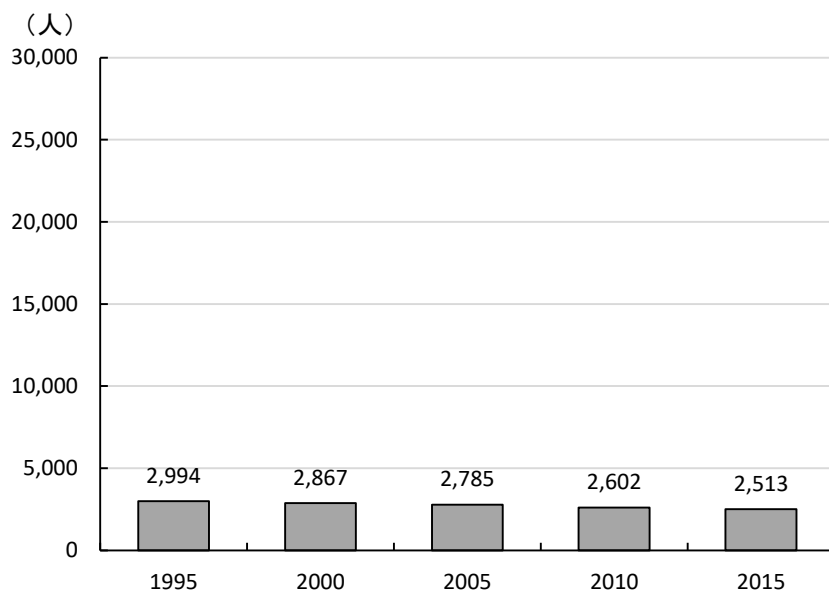


(資料) 総務省「国勢調査」

図 46 年齢 3 区分別人口の推移（速野学区）

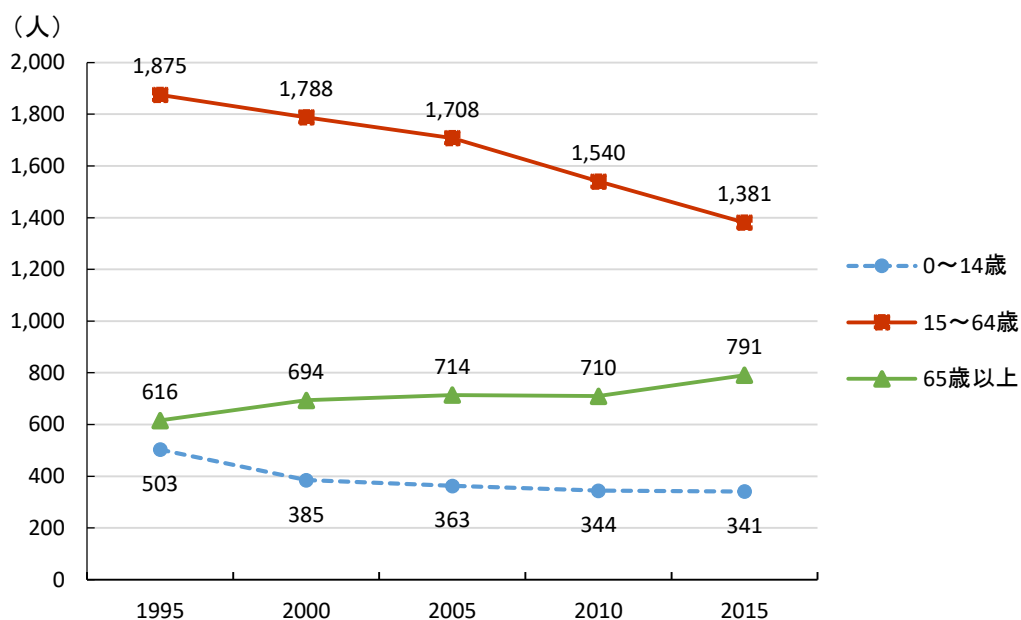
(8) 中洲学区の人口の推移

- ・中洲学区の総人口は減少傾向にある（図 47）。
- ・0～14 歳人口、14～64 歳人口は減少傾向にある（図 48）。65 歳以上人口は 1995 年時点で 0～14 歳人口を超えており、傾向としては横ばいである。
- ・1995 年時点で 0～14 歳人口は 65 歳以上人口を下回っており、その差は拡大傾向にある。



（資料）総務省「国勢調査」

図 47 総人口の推移（中洲学区）

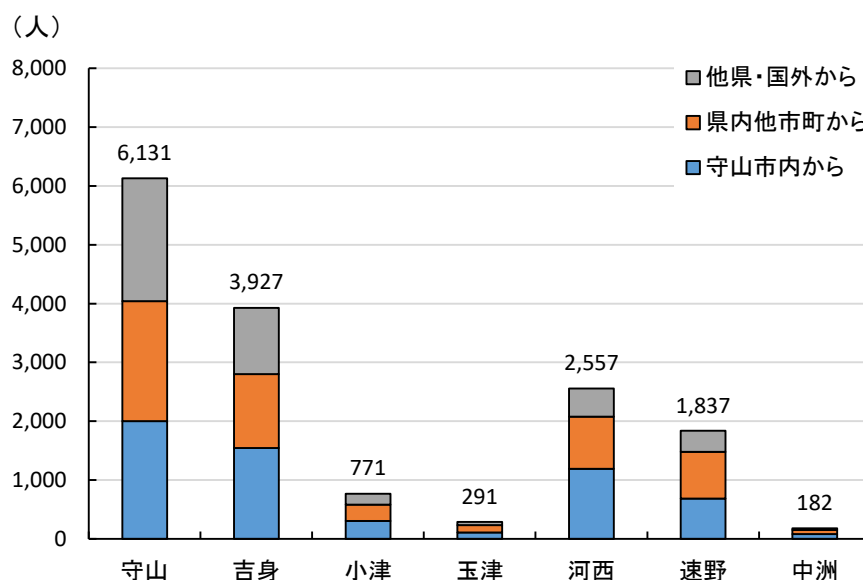


（資料）総務省「国勢調査」

図 48 年齢 3 区分別人口の推移（中洲学区）

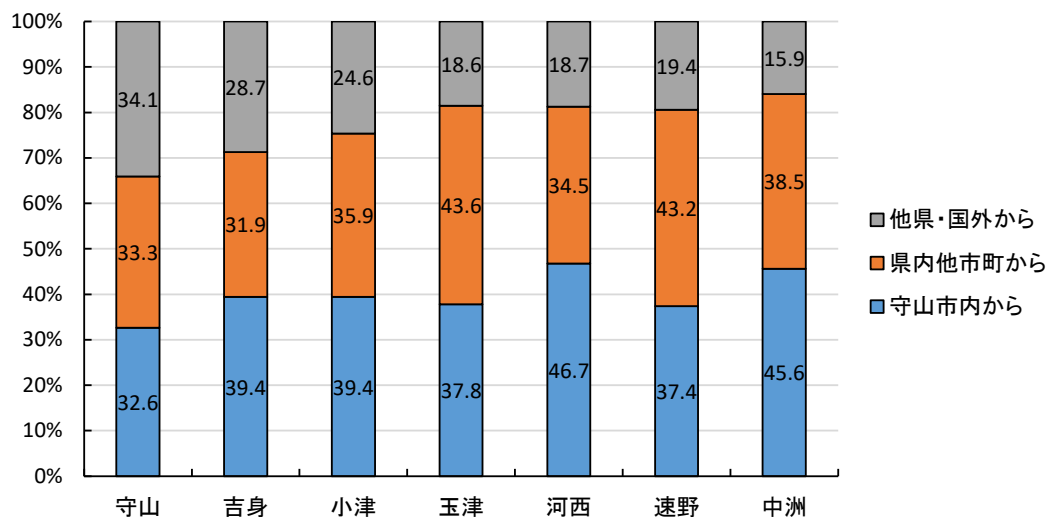
(9) 学区別の転入状況

- ・最も転入数が多いのは守山学区の6,131人、次いで吉身学区の3,927人である（図49）。対して中洲学区、玉津学区の転入数は300人を下回っており、大きな差がみられる。
- ・他県・国外からの転入者比率が最も高いのは守山学区である（図50）。県内他市町村については中洲学区が最も高く、守山市内については河西学区が最も高い。



（資料）総務省「国勢調査」

図49 学区別・転出元別転入数（2010年→2015年）

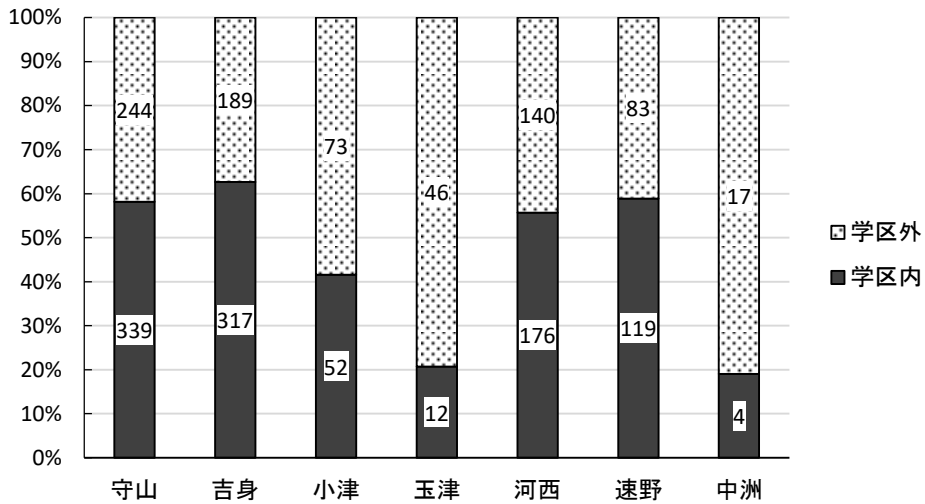


（資料）総務省「国勢調査」

図50 学区別・転出元別転入者比率（2010年→2015年）

(10) 学区別の市内転出状況

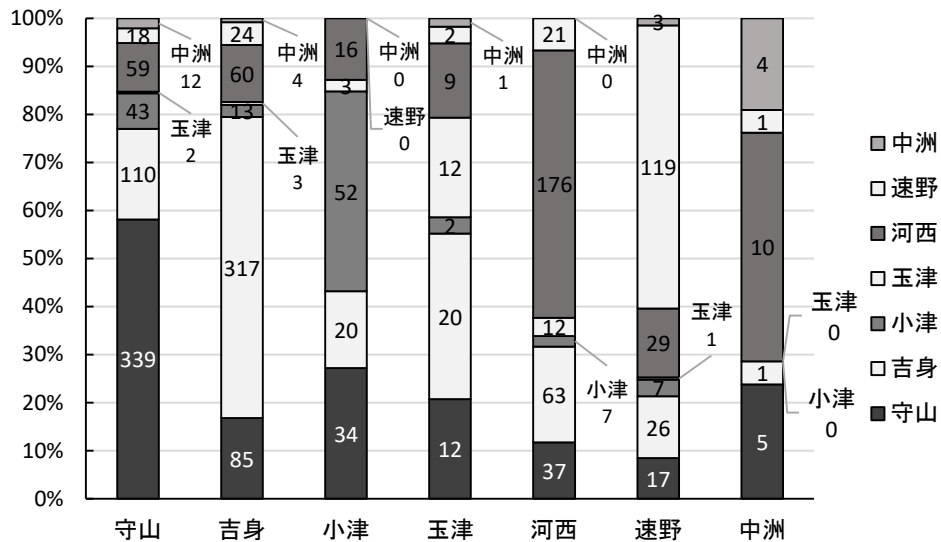
- ・ 守山、吉身、河西、速野学区では、学区内での移動が学区外転出を上回っている（図 51）。
- ・ 玉津、中洲学区では、学区内での移動が学区外転出を大きく下回っている。



(注) 2018年4月1日から2019年3月31日に生じた市内間移動を集計した。

(資料) 守山市資料より作成

図 51 学区間での移動状況 (2018年)



(注) 2018年4月1日から2019年3月31日に生じた市内間移動を集計した。

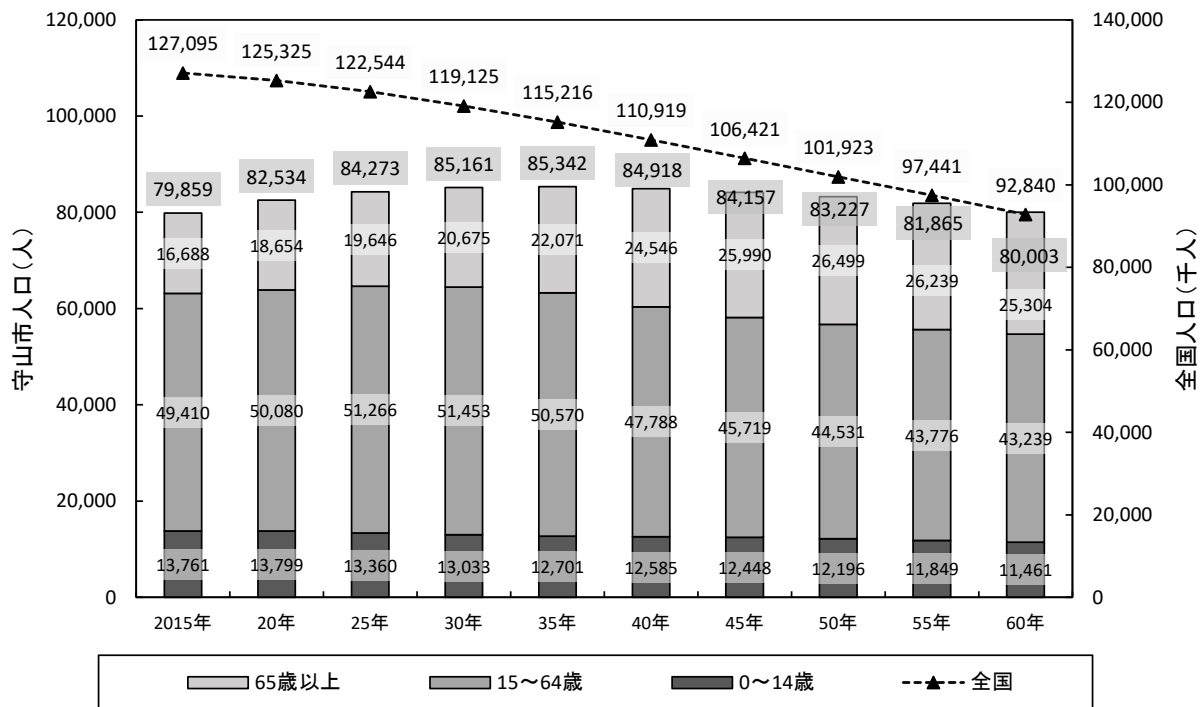
(資料) 守山市資料より作成

図 52 学区間での移動内訳 (2018年)

II. 将来の人口推計

1. 国における人口推計

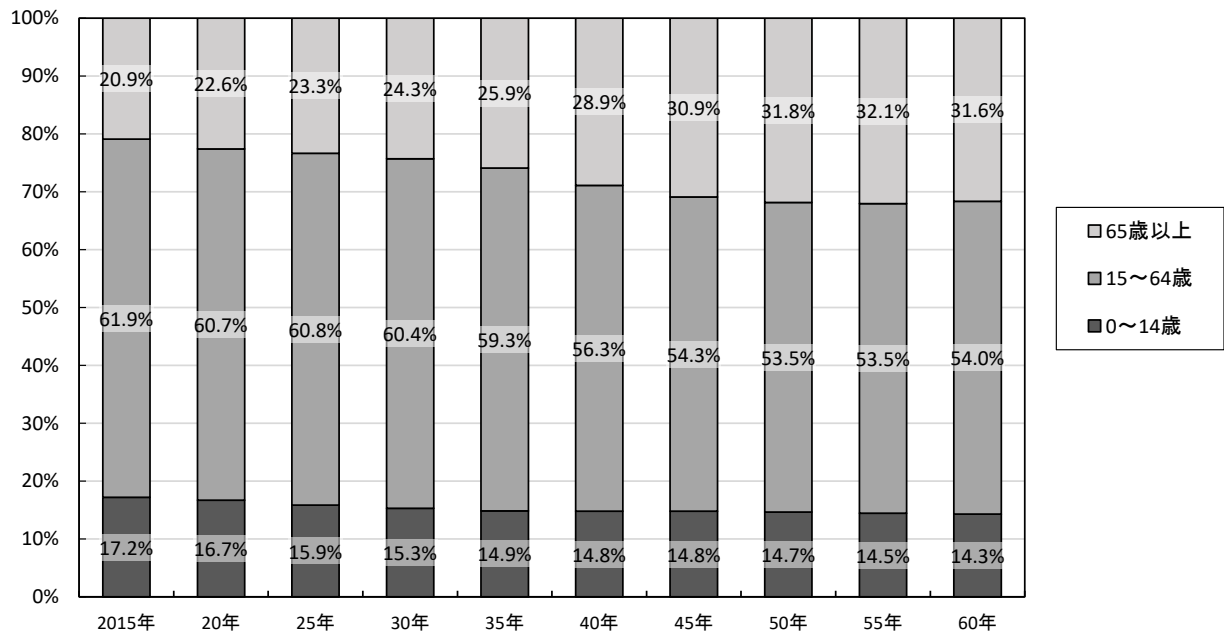
- ・社人研によると、守山市の人口は緩やかに増加を続け、2035年（令和17年）には85,342人になると推計されている。
- ・2035年以降は減少へ転じると推計されている。
- ・年少人口（0～14歳人口）比率は徐々に減少を続け、2065年（令和47年）には14.3%になると推計されている。
- ・高齢者（65歳以上人口）比率は徐々に増加を続け、2055年（令和37年）には32.1%に達すると推計されている。



（注）国立社会保障・人口問題研究所の推計手法に準拠して算出した値を用いた。

（資料）総務省「国勢調査」、国立社会保障・人口問題研究所「市町村別将来人口推計」等

図 53 年齢3区分別人口の将来推計（社人研）



(注) 国立社会保障・人口問題研究所の推計手法に準拠して算出した値を用いた。

(資料) 総務省「国勢調査」、国立社会保障・人口問題研究所「市町村別将来人口推計」等

図 54 年齢3区分別人口（割合）の将来推計（社人研）

2. 人口減少段階の分析

- ・人口減少段階は、一般的に「第1段階：老年人口の増加（総人口の減少）」、「第2段階：老年人口の維持・微減（減少率0%以上10%未満）」、「第3段階：老年人口の減少」の3つの段階を経て進行するとされている。
- ・本市の老年人口は2050年まで増加し、その後減少を始める。本市の人口減少段階は、現在は第1段階にあり、2050年から第2段階に移行するものと考えられる。

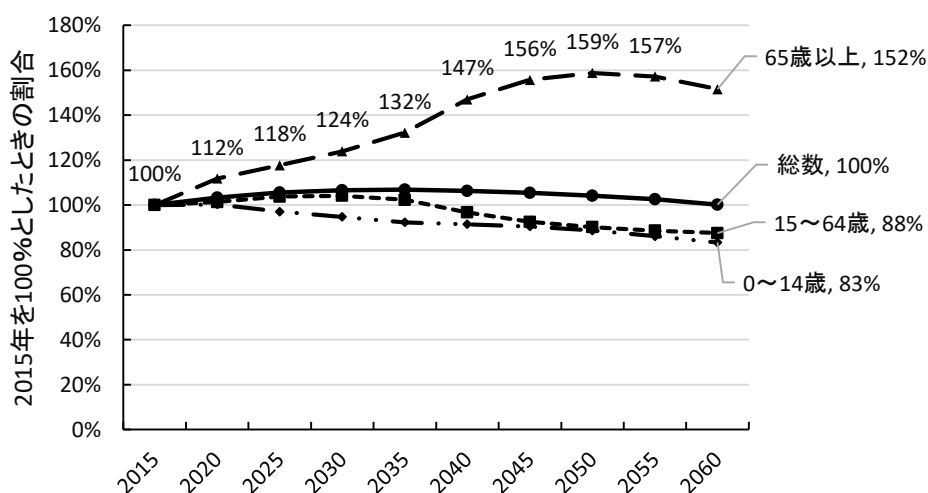


図 55 2015年を100%としたときの年齢構成別の人口割合 (社人研)

表 13 2015年と2045年における年齢構成別の人口と人口減少段階 (社人研)

	2015年 人口	2045年 人口	2015年を100とした 場合の2045年の指数	2045年における 人口減少段階
老年人口	16,688	25,990	156	1
生産年齢人口	49,410	45,719	93	
年少人口	13,761	12,448	90	

Ⅲ. 守山市の人口展望

1. 基本的な考え方

本市の将来人口として、第1期計画を踏襲し、2040年（令和22年）に88,000人程度の人口を展望する。

また、第1期計画で目標とした、2040年（令和22年）の合計特殊出生率（2.07）についても踏襲し、必要な取組を行っていくものとする。

表 14 合計特殊出生率のビジョン

	2025	2030	2035	2040	2045	2050	2055	2060
国長期ビジョン	-	1.8程度	-	2.07程度	-	-	-	-
守山市人口ビジョン	1.8	1.89	1.98	2.07	2.07	2.07	2.07	2.07

（参考）第1期計画時の取組の方向性

（1）合計特殊出生率の上昇

国の長期ビジョンにおける合計特殊出生率に基づき、2040年（令和22年）には2.07の合計特殊出生率を達成し、2040年以降は2.07の維持を目指す。

（2）社会移動の均衡

人口流出の抑制や地区計画の策定による計画的な住宅機能の供給により、社会動態の均衡を目指す。

（3）守山で生まれ育った世代の守山市での就職・居住の促進

市内で就職・居住しやすい環境を整備することで、今後予想される守山で生まれ育った子ども世代の市外への流出を抑制する。

2. 学区別の人口展望とシナリオ

学区別の人口を展望するにあたって、第1期計画時の人口動向（2005年から2010年の変化）と、現状の人口動向（2015年から2019年の変化）を比較し、シナリオの見直しについて検証した。

2005年と2010年は国勢調査、2015年と2019年は住民基本台帳（12月31日）の人口である。

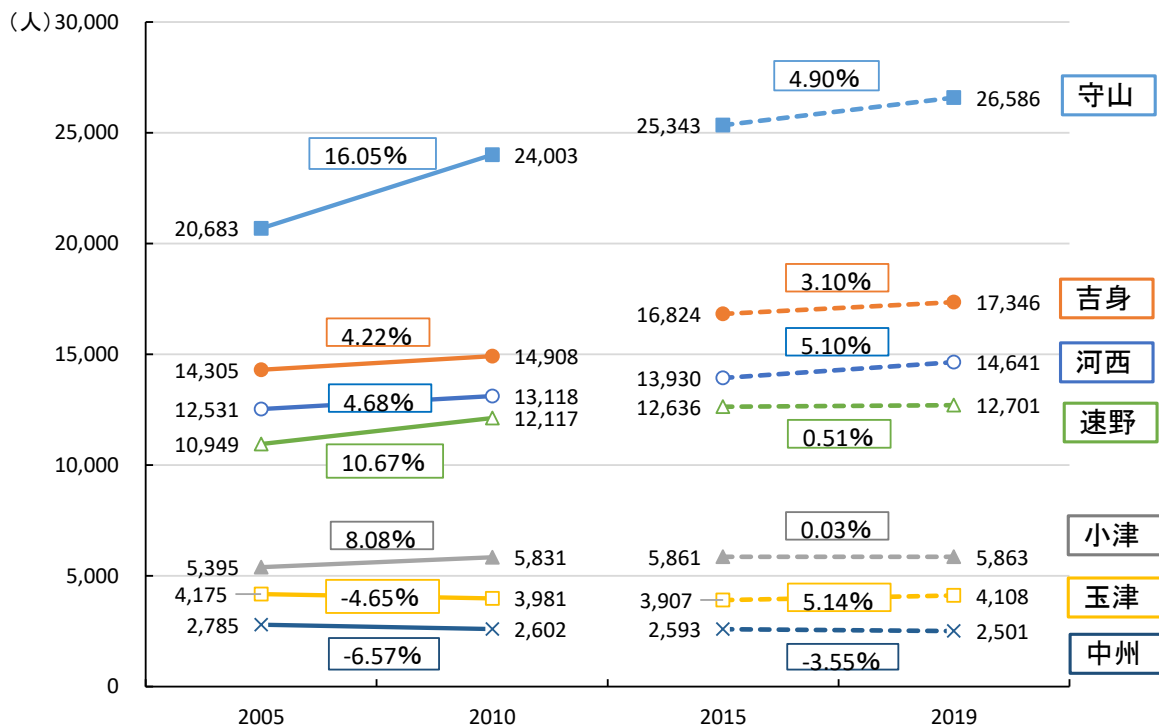


図 56 第1期計画時と現状の人口動向の比較

- ・ 守山学区：人口は増加し続けているが、増加率は鈍化している。
- ・ 吉身学区：人口は増加し続けており、増加率に大きな変化はない。
- ・ 小津学区：人口は横ばいとなり、増加率は鈍化している。
- ・ 玉津学区：人口は減少から増加へと転じた。
- ・ 河西学区：人口は増加し続けており、増加率に大きな変化はない。
- ・ 速野学区：人口は増加し続けているが、増加率は鈍化している。
- ・ 中州学区：人口は減少し続けているが、減少率は鈍化している。

直近の人口動向を踏まえ、学区ごとの展望人口とシナリオの見直しを行う。

①展望する人口

展望する人口の設定は、以下の条件で行う。

- 2020年の出生率……1.71（参考：2017年の出生率（実績値））
- 2040年の出生率……2.07（本ビジョンにおける値（42ページ参照））
- 社会移動率は、直近の人口動向から以下のように見直す。

表 15 人口動向の変化に伴う見直し

学区	人口動向	第1期計画からの社会移動率の見直し
守山	人口は増加し続けているが、増加率は鈍化。	下方修正
吉身	人口は増加し続けており、増加率に大きな変化はない。	—
小津	人口は横ばいとなり、増加率は鈍化。	下方修正
玉津	人口は減少から増加へと転じた。	上方修正
河西	人口は増加し続けており、増加率に大きな変化はない。	—
速野	人口は増加し続けているが、増加率は鈍化。	下方修正
中洲	人口は減少し続けているが、減少率は鈍化。	上方修正

以上の条件で展望される学区別の人口は、次頁のとおりである。

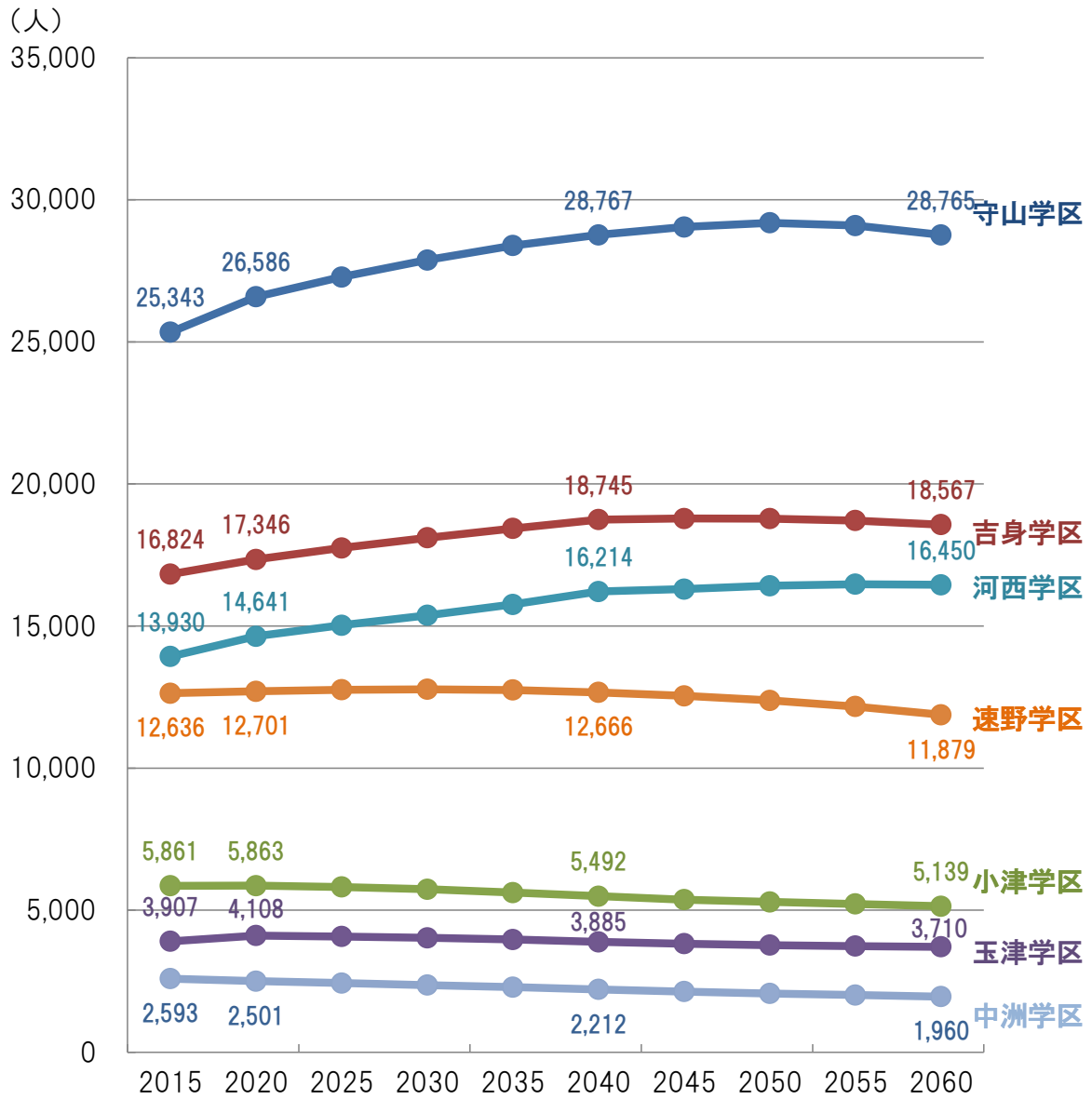
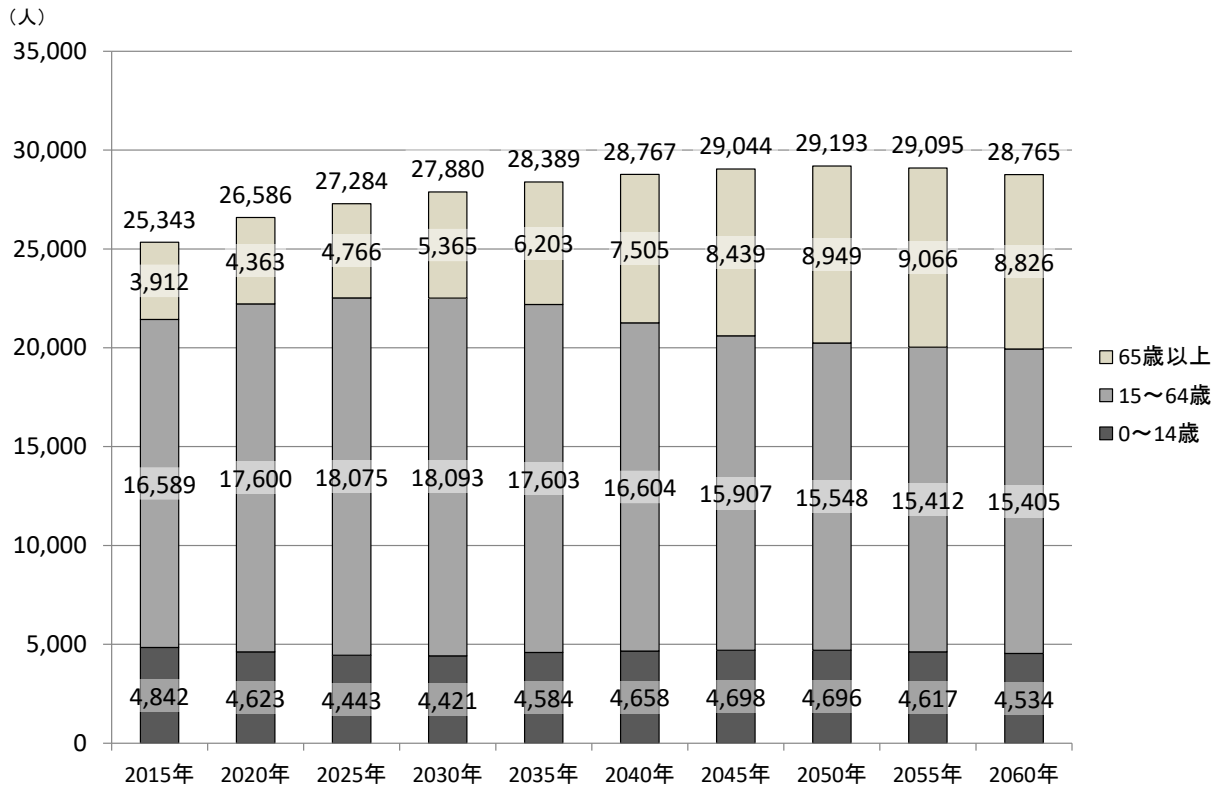
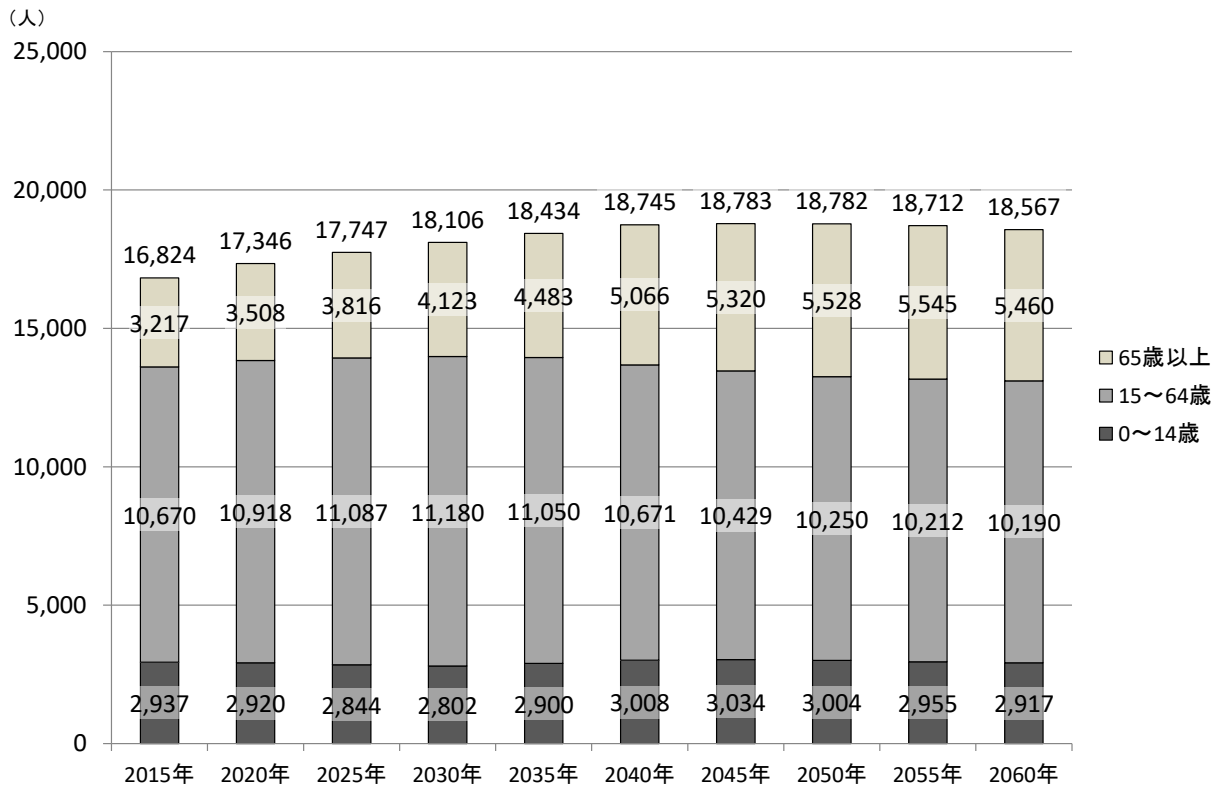


図 57 学区別の人口展望

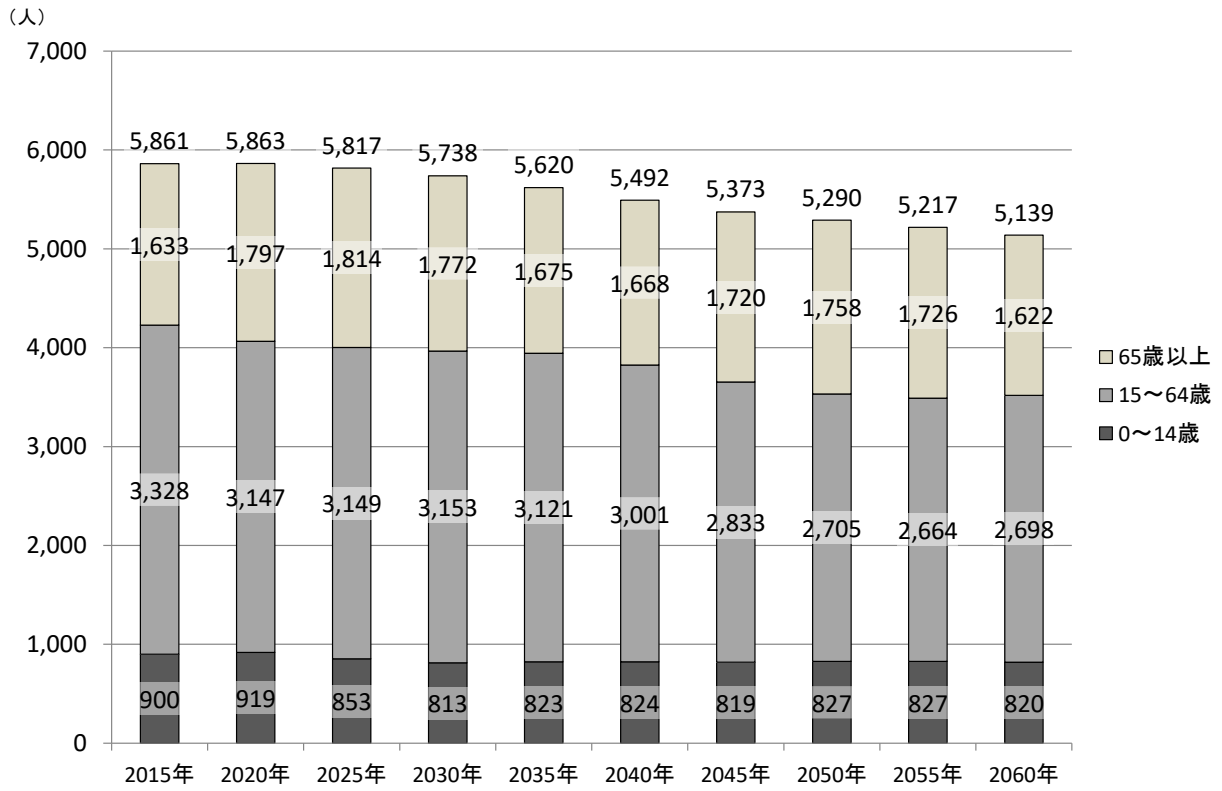
守山学区



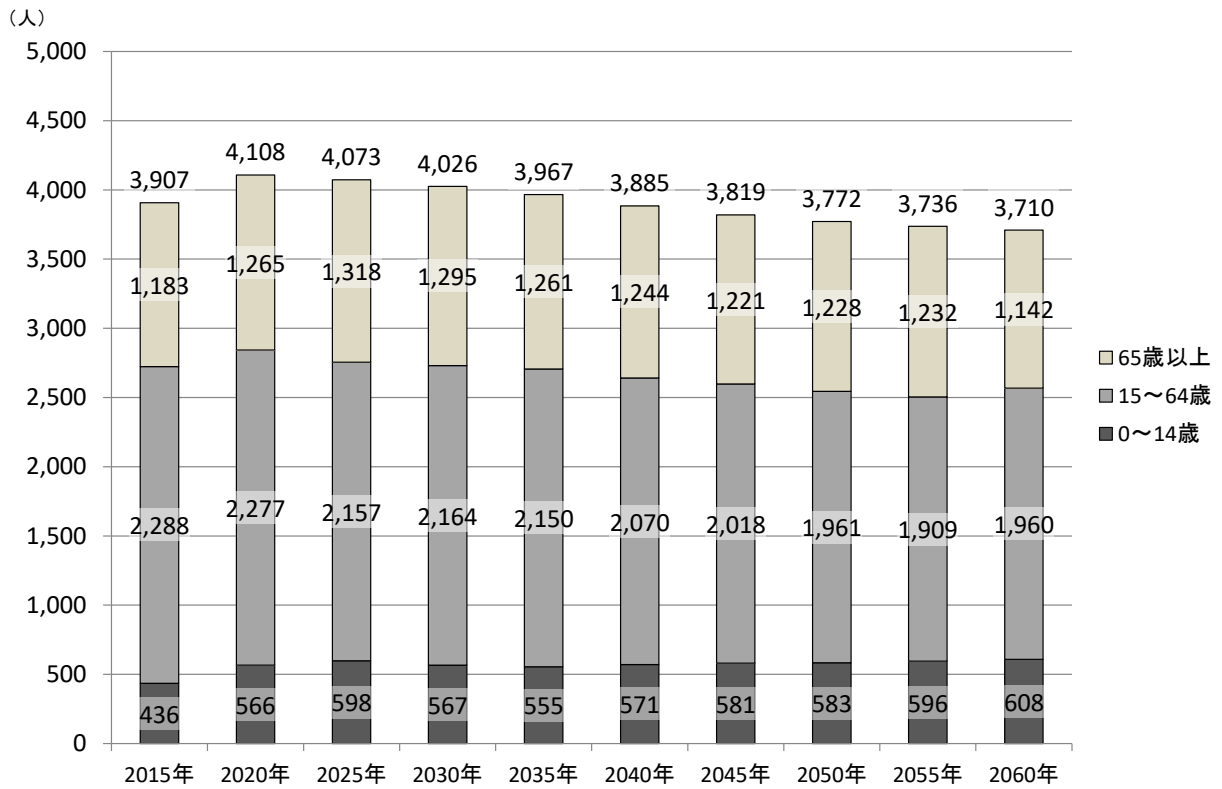
吉身学区



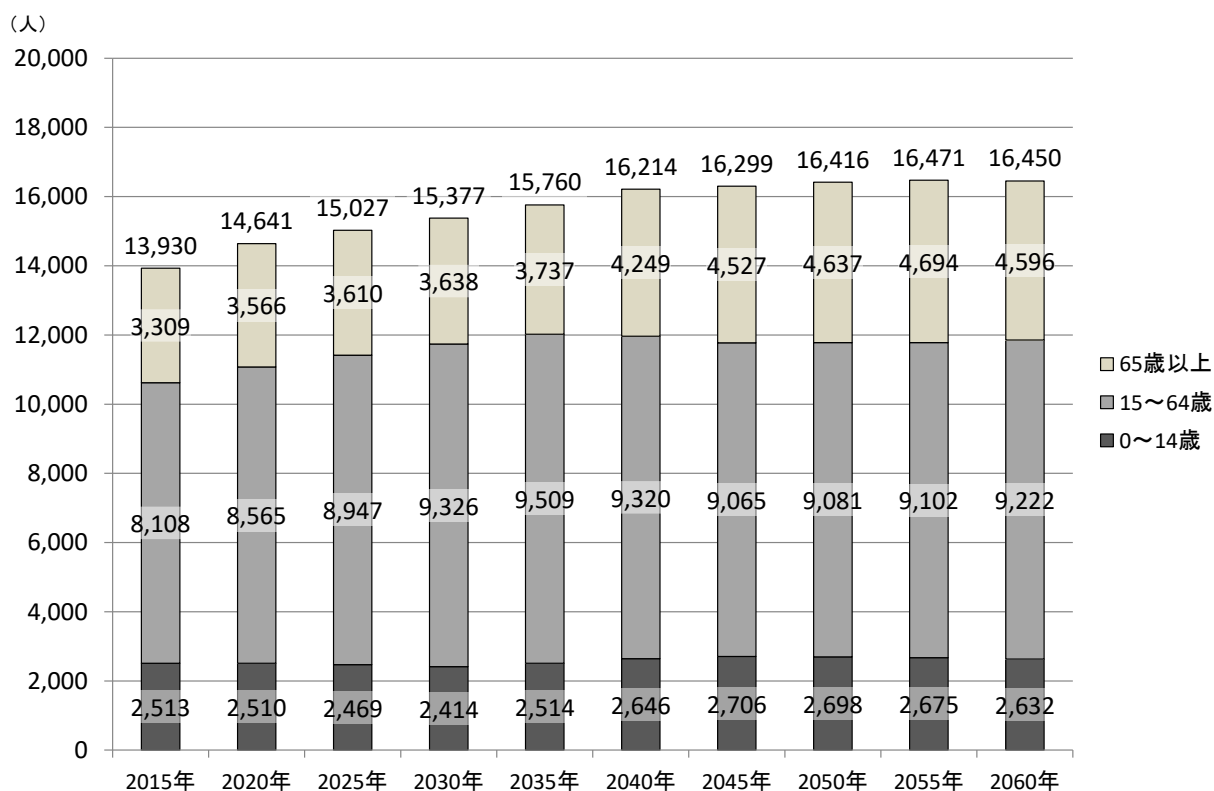
小津学区



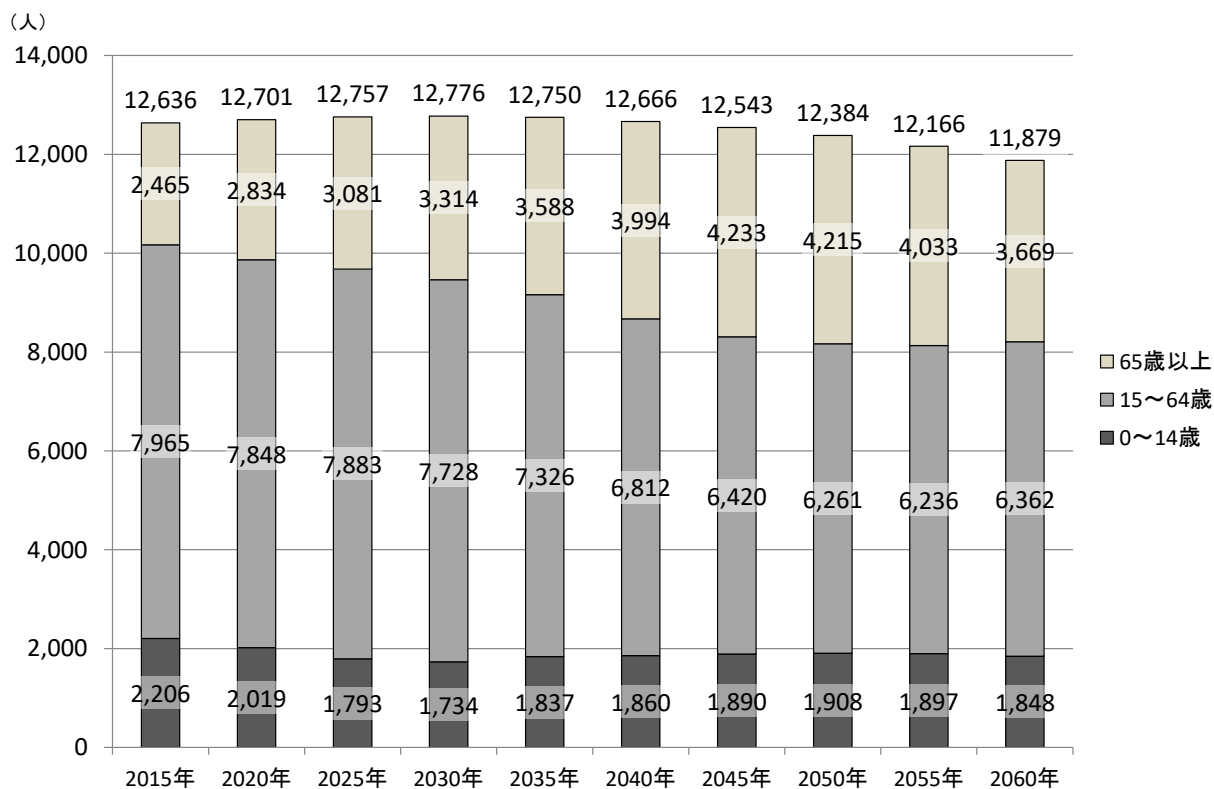
玉津学区



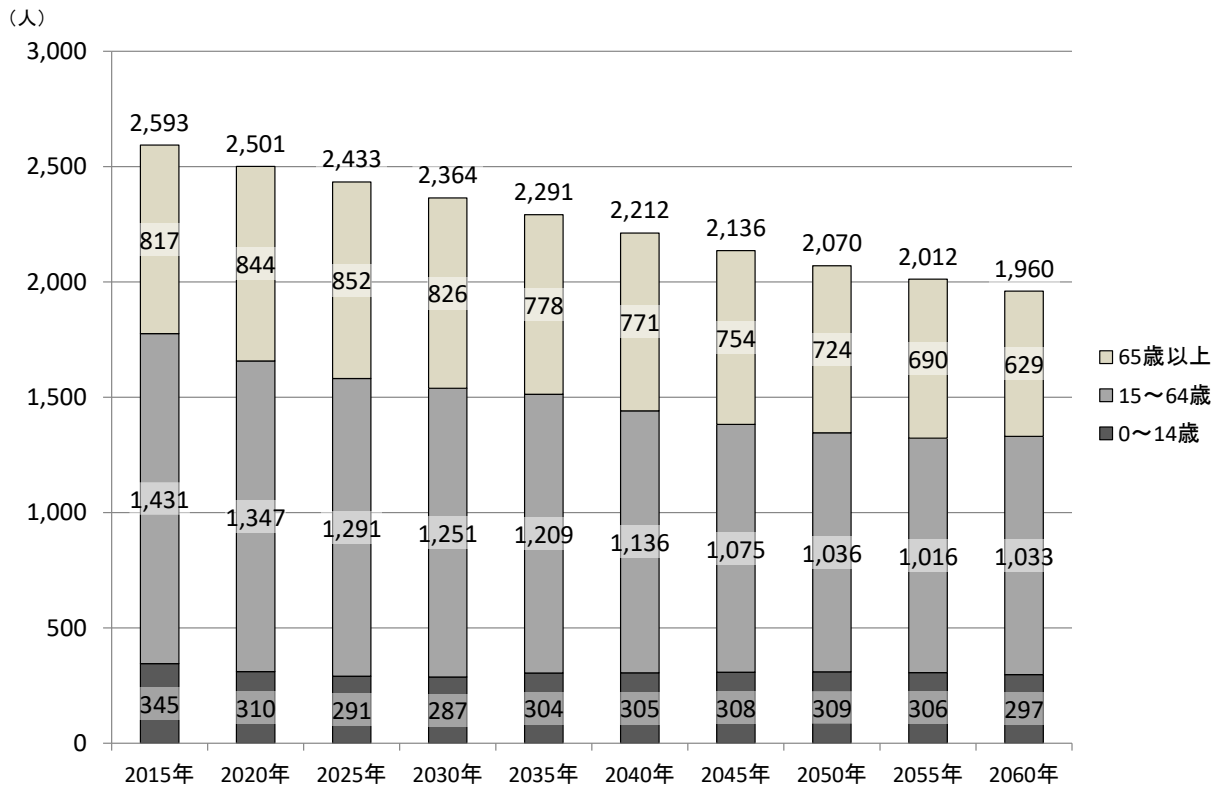
河西学区



速野学区



中洲学区



②学区別のシナリオ

以上を踏まえ、学区ごとのシナリオを以下に示す。

表 16 学区ごとのシナリオの見直し

学区	第 1 期計画	第 2 期計画
共通	子育て支援、女性が活躍する機会の創出などにより、出生率の上昇を目指す。	【継続】 子育て支援、女性が活躍する機会の創出などにより、出生率の上昇を目指す。
守山	土地の高度利用を促進しつつ、子ども世代の将来的な市外への流出を抑制する。	【変更】 子ども世代の将来的な市外への流出を抑制する。
吉身	子ども世代の将来的な市外への流出を抑制する。	【継続】 子ども世代の将来的な市外への流出を抑制する。
小津	子ども世代の将来的な市外への流出を抑制する。	【継続】 子ども世代の将来的な市外への流出を抑制する。
玉津	人口減少を早期に食い止める。	【変更】 子ども世代の将来的な市外への流出を抑制する。
河西	子ども世代の将来的な市外への流出を抑制する。	【継続】 子ども世代の将来的な市外への流出を抑制する。
速野	子ども世代の将来的な市外への流出を抑制する。	【継続】 子ども世代の将来的な市外への流出を抑制する。
中洲	人口減少を早期に食い止める。	【継続】 人口減少を早期に食い止める。

3. 全市的な人口展望

学区別のシナリオの実現により、守山市が将来目指すべき人口規模を下記の通り展望する。

2040年（令和22年）に88,000人程度の人口規模、2060年（令和42年）に86,000人程度の人口維持を目指す。

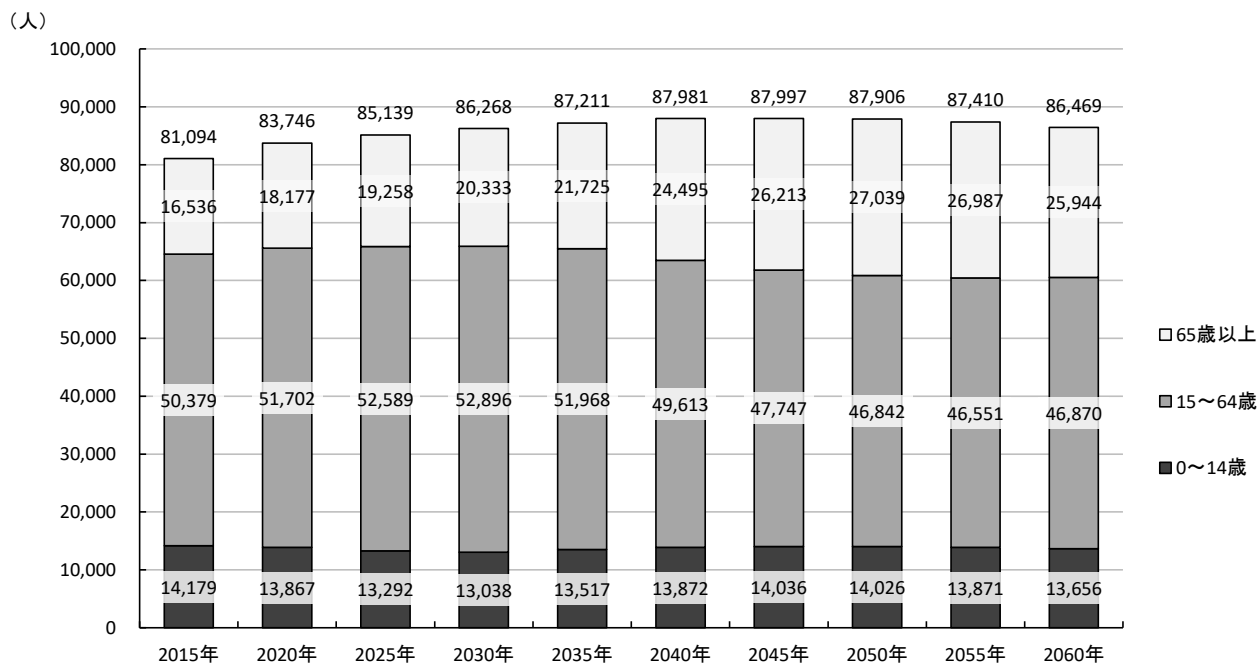


図 58 守山市の人口展望

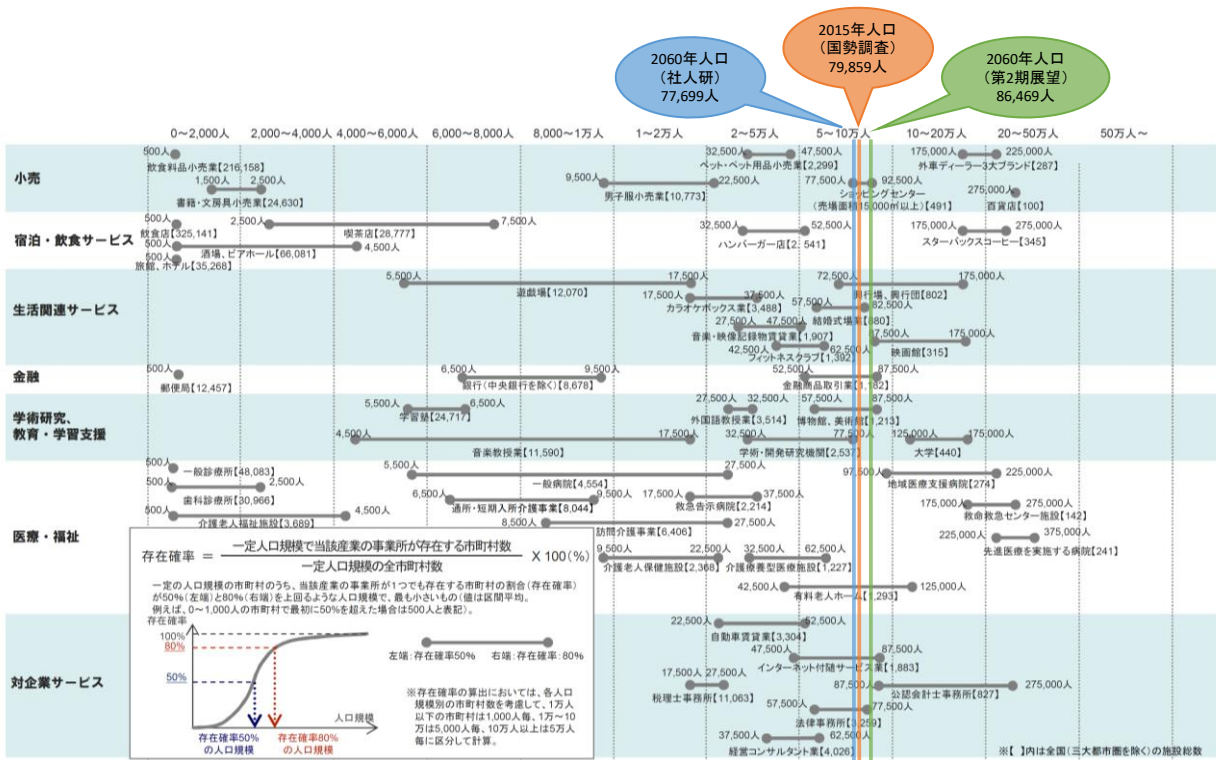
參考資料

参考資料

人口の変化が地域に与える影響や社会情勢を示す値など、人口動向や推計結果に関わる項目を、参考資料として下記に示す。

1. 人口の変化が地域に与える影響

・日常生活を送るために必要な各種サービスは、一定の人口規模のうえに成り立っており、必要とされる人口規模はサービスの種類により様々である。人口減少に伴い、立地に必要な人口規模を割ると予想されるサービス業は増加していく。



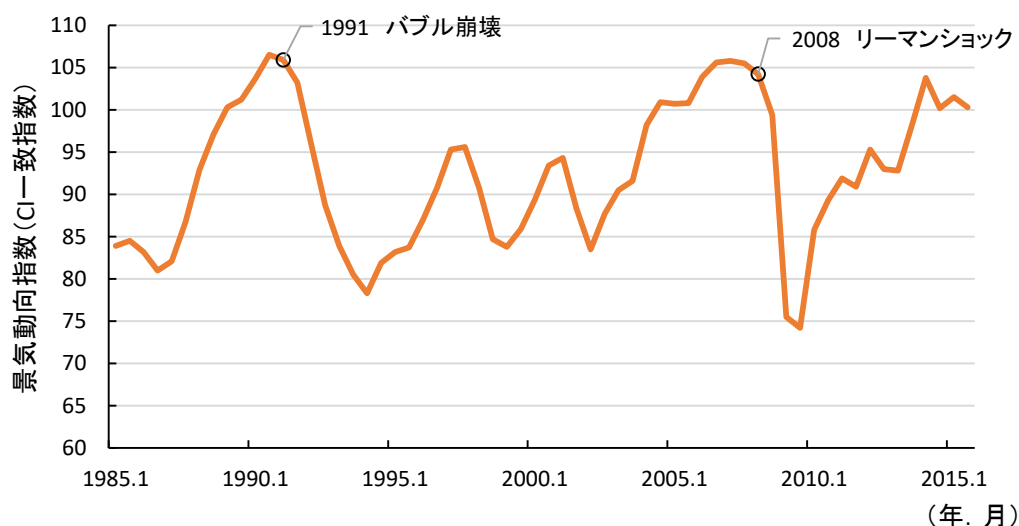
(資料) 国土交通白書 (2014)

図 59 人口規模とサービス施設の立地 (三大都市圏を除く)

2. 景気の動向

- ・景気動向指数は、生産、雇用など様々な経済活動での重要かつ景気に敏感に反応する指標の動きを統合することによって、景気の現状把握及び将来予測に資するために作成された指標である。
- ・景気動向指数のひとつである CI（コンポジット・インデックス）は、景気変動の大きさやテンポ（量感）を測定することを主な目的とする。
- ・CI には、景気に対し先行して動く先行指数、ほぼ一致して動く一致指数、遅れて動く遅行指数の 3 つの指数がある。景気の現状把握には、一致指数を利用する。
- ・一般的に、CI 一致指数が上昇している時は景気の拡張局面、低下している時は後退局面であり、CI 一致指数の動きと景気の転換点は概ね一致する。

（内閣府 HP より引用）

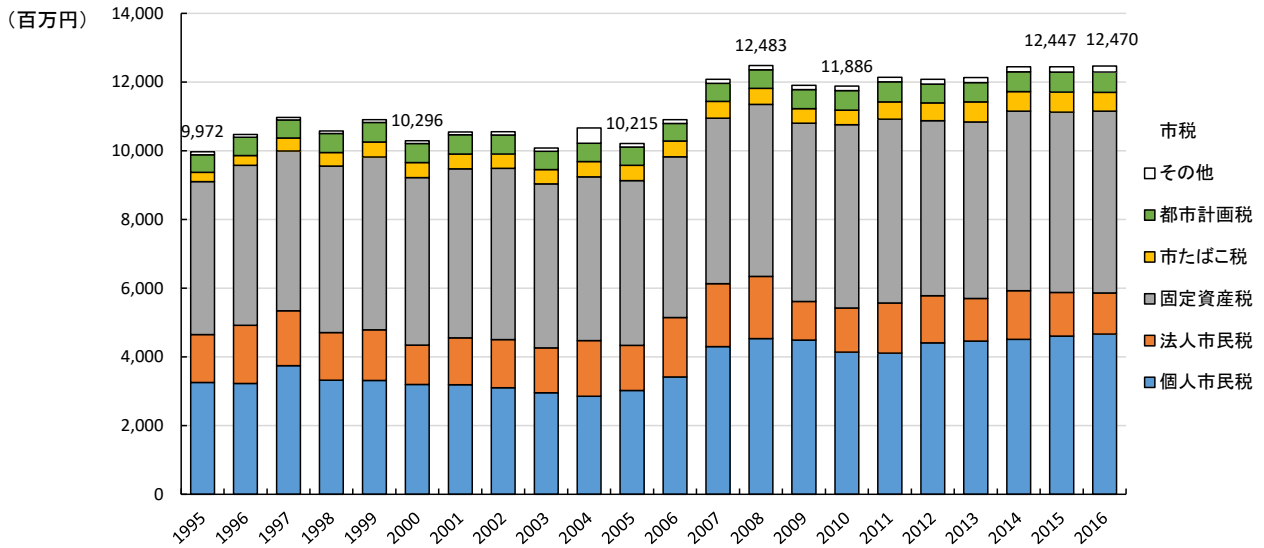


（資料）内閣府統計情報

図 60 景気動向指数（CI 一致指数）の推移

3. 守山市の歳入（市税）の推移

・本市の税収は 1997 年から 2005 年にかけて減少傾向にあったが、2006 年から 2008 年で大きく増加し、以降は横ばいとなっている。

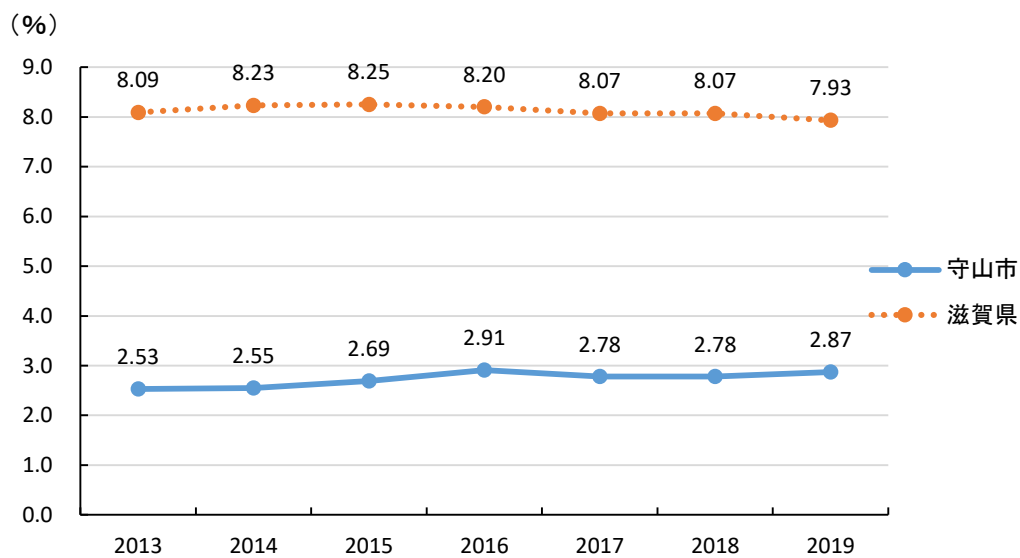


(資料) 守山市統計資料

図 61 守山市の税収の推移

4. 守山市の生活保護受給率の推移

- ・本市の生活保護受給率は、滋賀県内の平均値と比べて低い。
- ・2013年から2016年にかけて増加傾向にあったが、以降は横ばいである。



(資料) 守山市資料

図 62 守山市の生活保護受給率の推移